

京丹波町
高齢者福祉計画・介護保険事業計画
策定に係るアンケート調査結果

概要

令和5年3月

京丹波町

目 次

第1章 調査の目的と実施概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 実施概要.....	1
3. 調査結果の見方.....	1
第2章 調査結果	2
I-I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....	2
調査対象者の属性.....	2
問1. 家族や生活状況について.....	3
問2. 運動外出について.....	6
問3. 食べることについて.....	9
問4. 毎日の生活について.....	10
問5. 地域での活動について.....	11
問6. たすけあいについて.....	12
問7. 健康について.....	12
問8. 認知症に係る相談窓口の把握について.....	15
問9. 京丹波町の高齢者福祉施策について.....	15
I-II 生活機能評価.....	17
1. 生活機能評価手法の概要.....	17
(1) 生活機能.....	17
(2) 老研式活動能力指標.....	18
2. 評価結果.....	20
II 在宅介護実態調査.....	24
A票. 調査対象者について.....	24
B票. 主な介護者の方について.....	33

第1章 調査の目的と実施概要

1. 調査の目的

本調査は、令和6年度～8年度までを計画期間とする「京丹波町高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画」の策定に当たり、町内の高齢者等の生活実態や健康状態等を把握し、これを計画策定の基礎資料とするために実施したものです。

2. 実施概要

(1) 調査の対象者と配布数

調査の対象者と配布数について、整理すると次のとおりです。

調査名	対象者	配布数	回収数	回収率	
					(前回)
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	65歳以上の 要介護認定者以外	1,000	660	66.0%	72.5%
在宅介護実態調査	在宅の要介護認定者	498	276	55.4%	54.9%

(2) 調査方法

郵送による配布・回収

(3) 抽出基準日

令和4年12月26日

(4) 調査期間

令和5年1月11日(水)～1月25日(水)

3. 調査結果の見方

◇タイトル右には、設問に応じ、S A（単数回答）、M A（複数回答）、F A（自由記述）を示しています。

◇各設問のカテゴリー（選択肢）等について、表現を短縮・簡略化している場合があります。

◇集計結果のグラフのnの値は、当該設問の回答者数を示しています。

◇集計結果のグラフ・表における“無回答”には、当該設問への無回答の他、回答規則違反（例えば、S Aの設問における複数回答等）の件数（票数）が含まれます。

◇集計結果のグラフ・表における比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して算出・表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。

◇表における 表示はその種別の第一位の項目（無回答を除く）を示しています。

第2章 調査結果

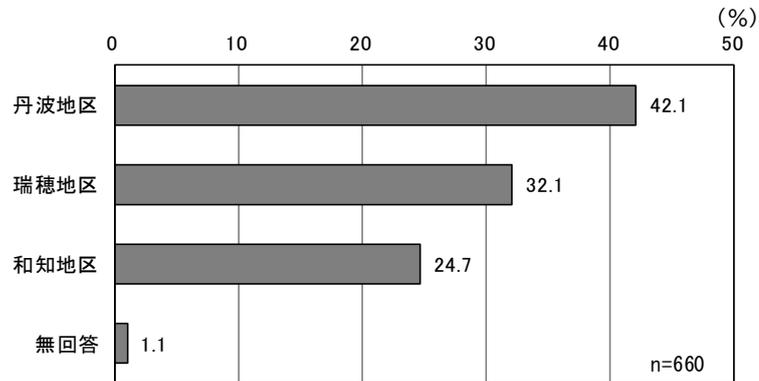
1-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

※生活機能評価に関する設問は、I-IIの生活機能評価結果にまとめています。

調査対象者の属性

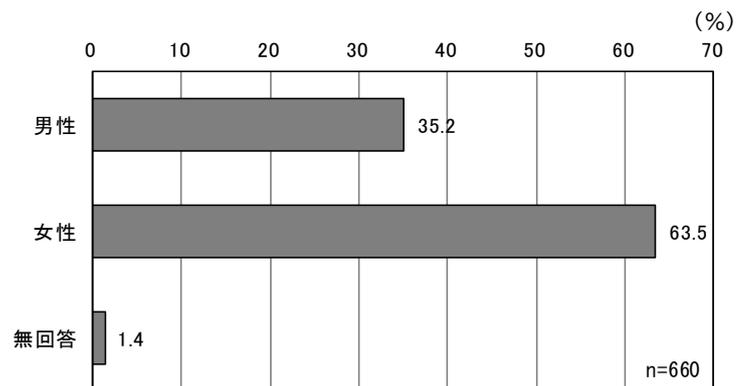
Q1. 居住地区

【SA】



Q2. 性別

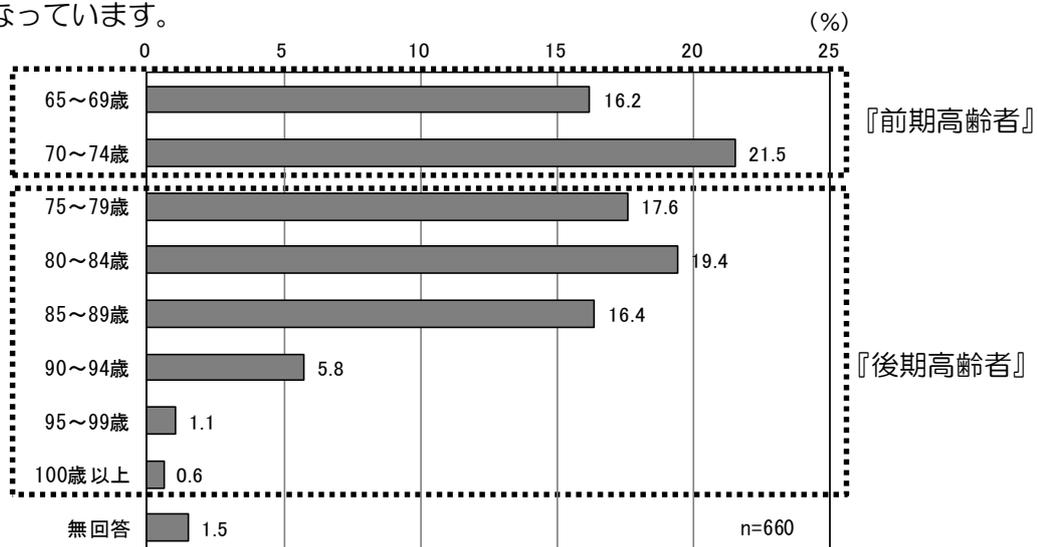
【SA】



Q3. 年齢

【SA】

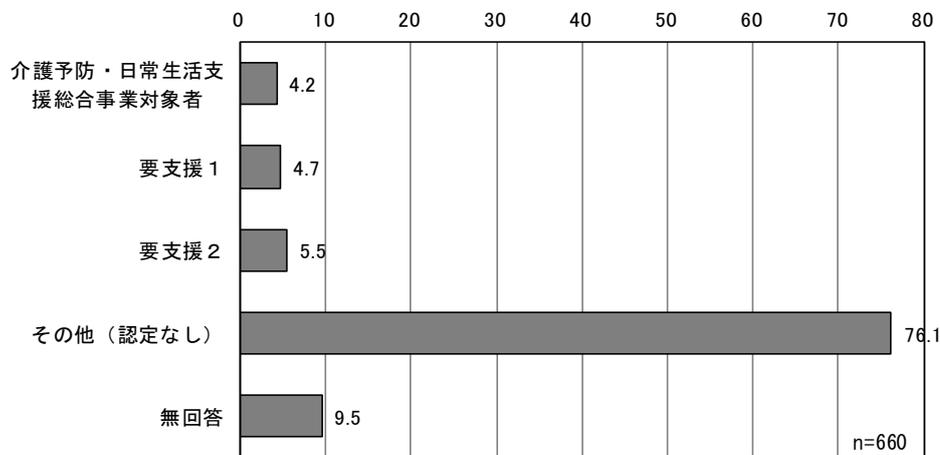
○「65～69歳」と「70～74歳」を合わせた『前期高齢者』が37.7%、75歳以上の『後期高齢者』が60.9%となっています。



Q4. 要介護状態区分

【SA】

○「その他（認定なし）」が76.1%で最も高く、次いで「要支援2」が5.5%、「要支援1」が4.7%の順となっています。



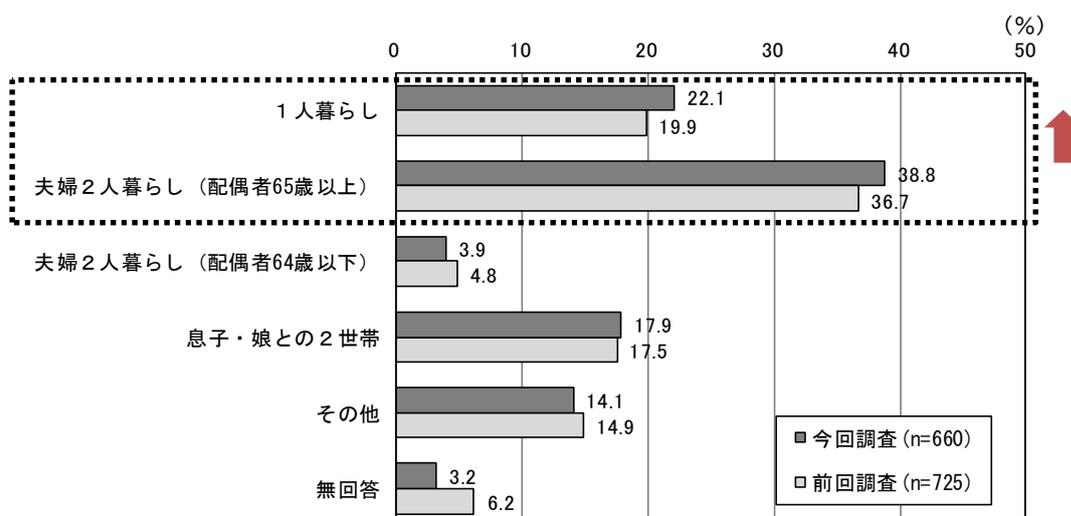
問1. 家族や生活状況について

Q1. 家族構成

【SA】

○「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が38.8%で最も高く、次いで「1人暮らし」が22.1%、「息子・娘との2世帯」が17.9%の順となっています。

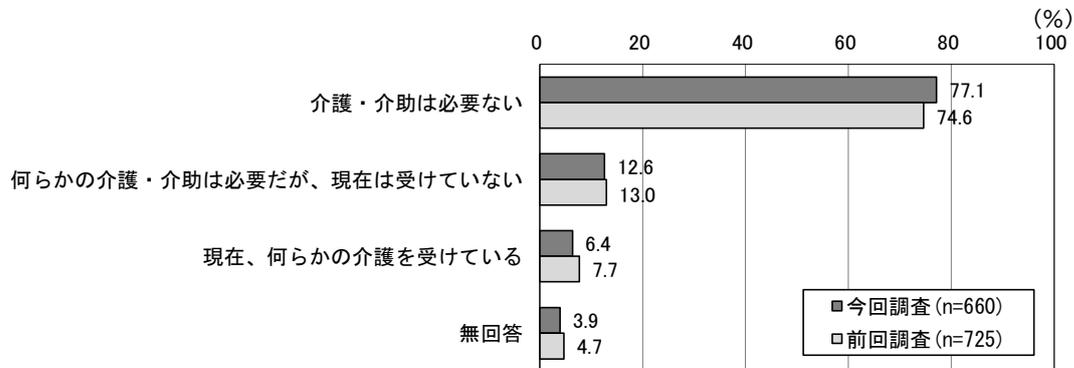
○前回調査に比べ「1人暮らし」が2.2ポイント、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が2.1ポイント増加しています。



Q2. 介護・介助を必要としているか

【SA】

○「介護・介助は必要ない」が77.1%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が12.6%、「現在、何らかの介護を受けている」が6.4%の順となっています。
 ○前回調査に比べ「介護・介助は必要ない」が2.5ポイント増加しています。

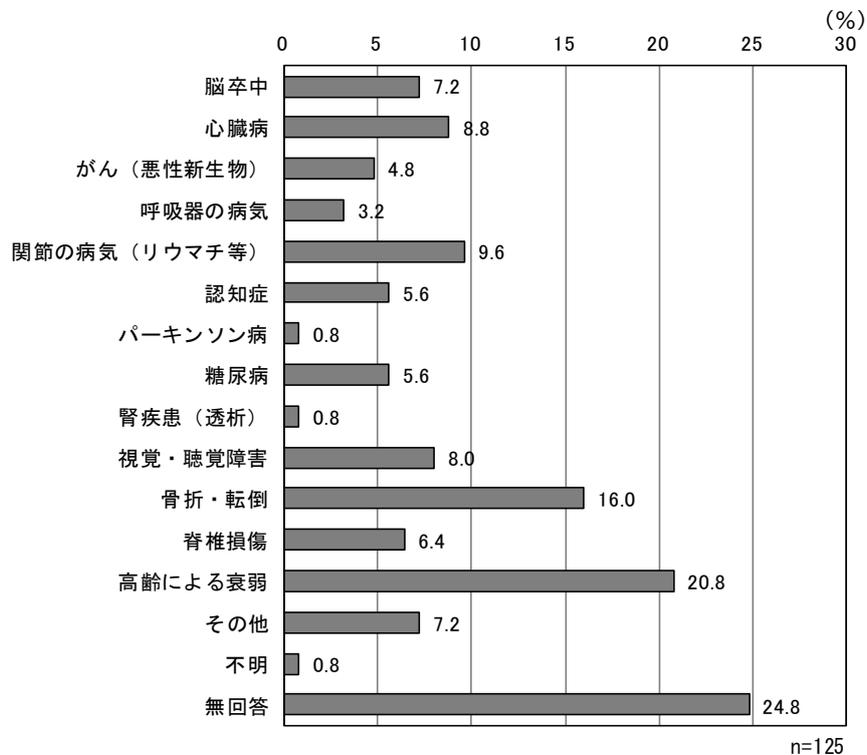


Q2-1. 介護・介助が必要になった原因

【MA】

(Q2において「介護・介助は必要ない」以外を選択した方限定)

○「高齢による衰弱」が20.8%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が16.0%、「関節の病気（リウマチ等）」が9.6%の順となっています。

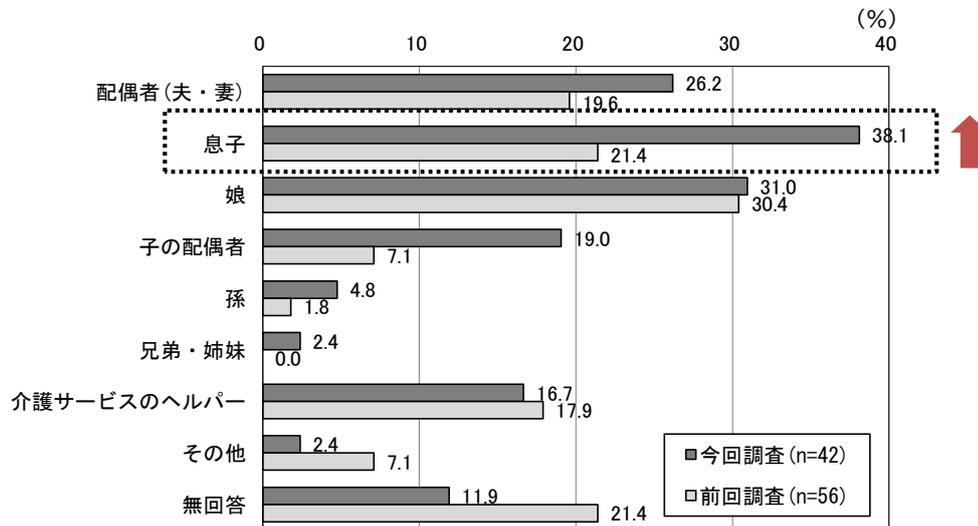


Q2-2. 主な介護・介助者

【MA】

(Q2において「現在、何らかの介護を受けている」を選択した方限定)

○「息子」が38.1%で最も高く、次いで「娘」が31.0%、「配偶者(夫・妻)」が26.2%の順となっており、前回調査に比べ「息子」が16.7ポイント増加しています。

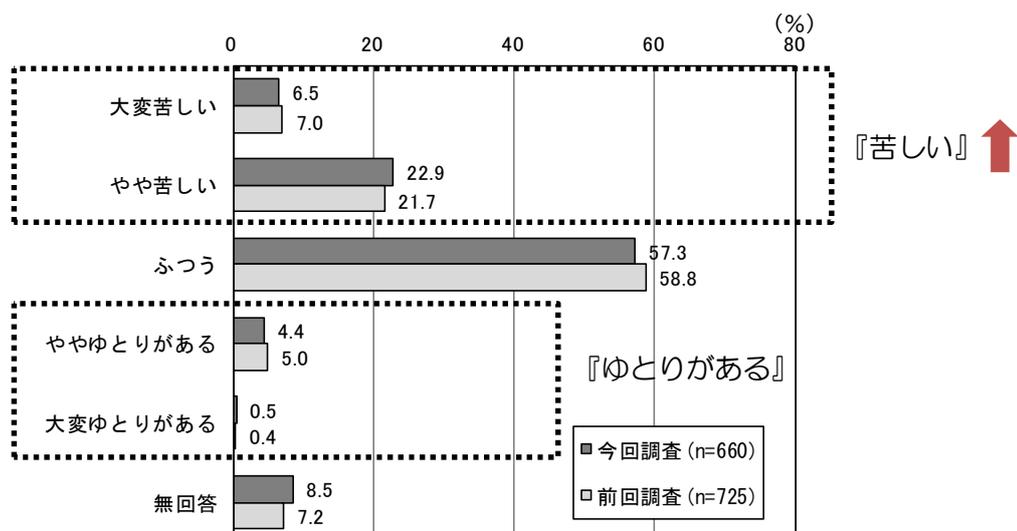


Q3. 現在の暮らしの経済的状況

【SA】

○「ふつう」が57.3%、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が29.4%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』が4.9%となっています。

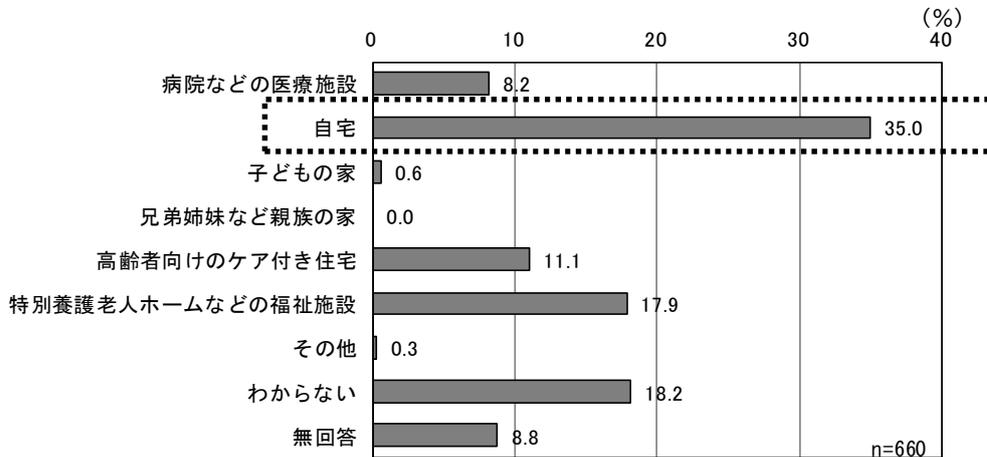
○前回調査に比べ『苦しい』は0.7ポイント増加しました。



Q5. 介護が必要になったとき、生活したい場所

【SA】

○「自宅」が35.0%で最も高く、次いで「わからない」が18.2%、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」が17.9%の順となっています。



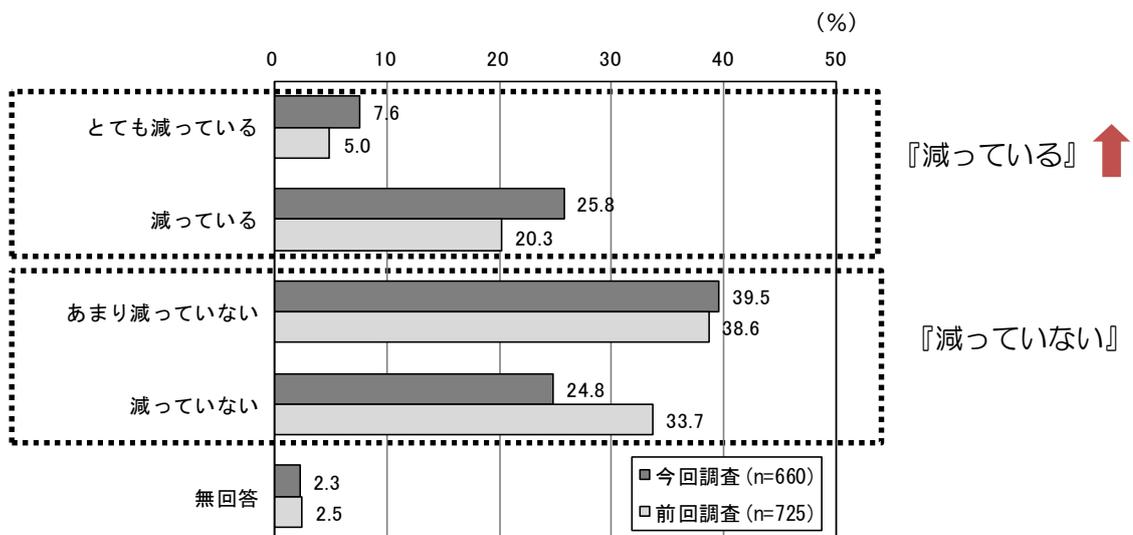
問2. 運動外出について

Q7. 昨年と比べた外出回数

【SA】

○「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が33.4%、「あまり減っていない」と「減っていない」を合わせた『減っていない』が64.3%となっています。

○前回調査に比べ『減っている』が8.1ポイント増加しています。

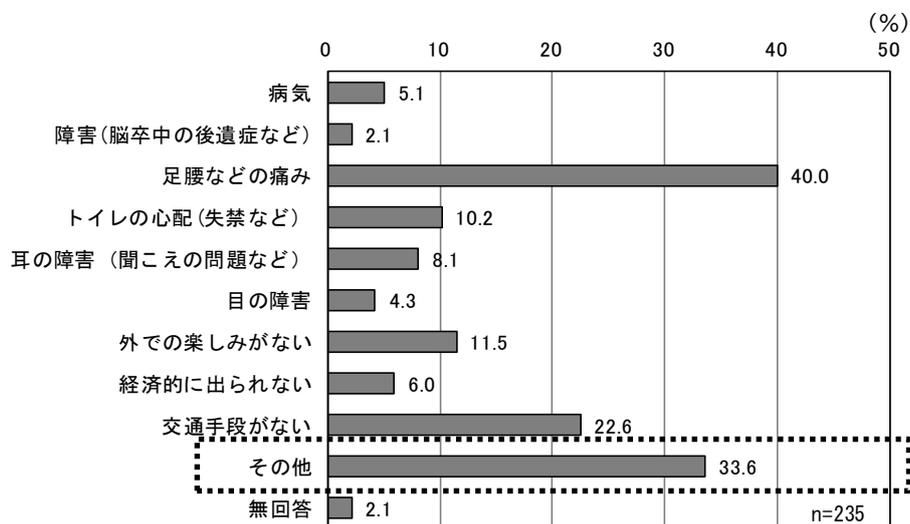


Q8-1. 外出を控えている理由

【MA】

(Q8で「はい(外出を控えている)」を選択した方限定)

○「足腰などの痛み」が40.0%で最も高く、次いで「その他」が33.6%、「交通手段がない」が22.6%の順となっています。「その他」は、コロナ感染症の予防のためという意見が多くみられます。



【その他】



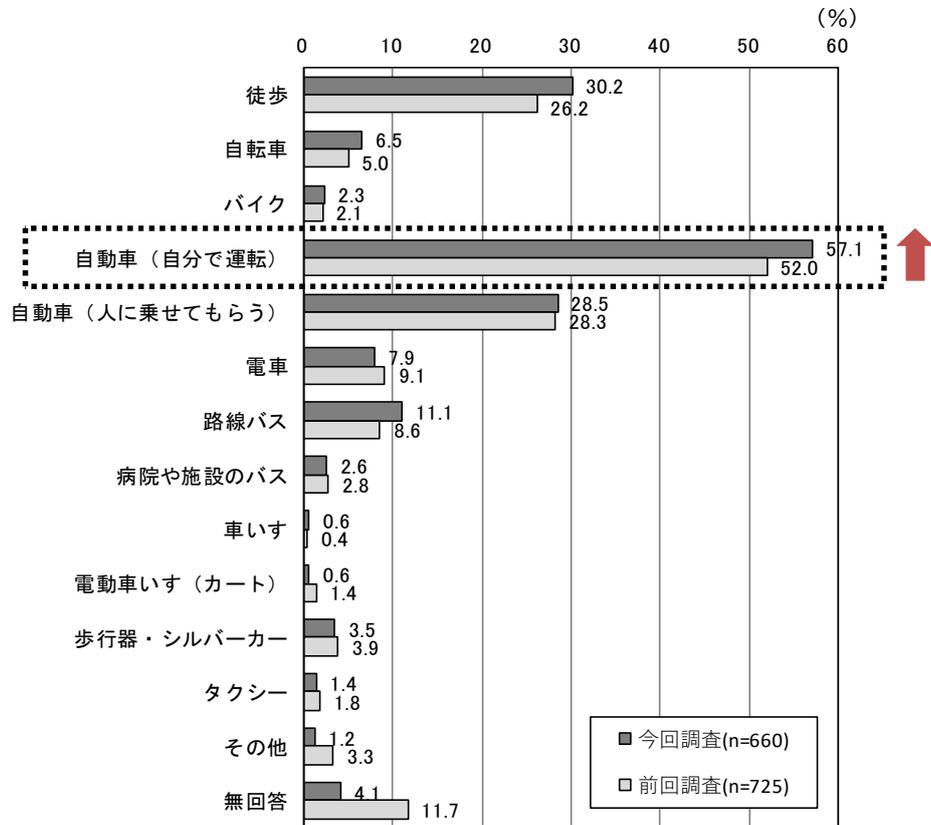
※単語出現頻度の高さを文字サイズで示しています。

Q9. 外出する際の移動手段

【MA】

○「自動車（自分で運転）」が57.1%で最も高く、次いで「徒歩」が30.2%、「自動車（人に乗せてもらう）」が28.5%の順となっています。

○前回調査に比べ「自動車（自分で運転）」が5.1ポイント増加しています。



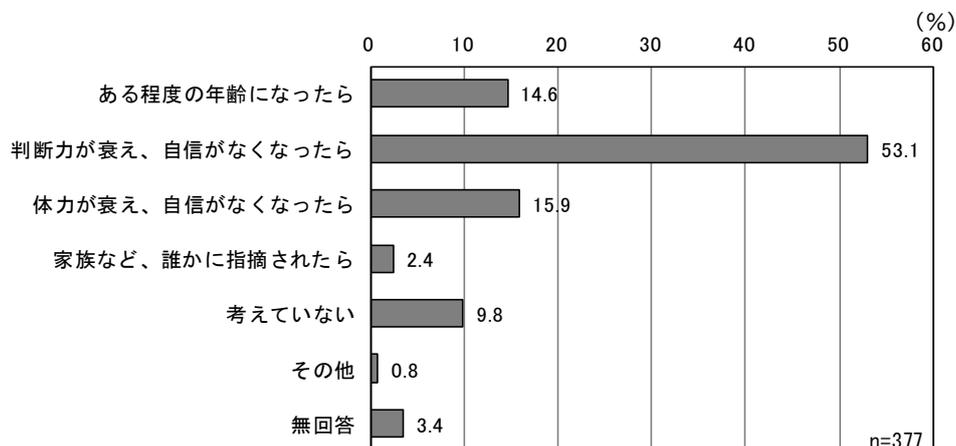
Q9-1. 運転免許を返納する時期

【SA】

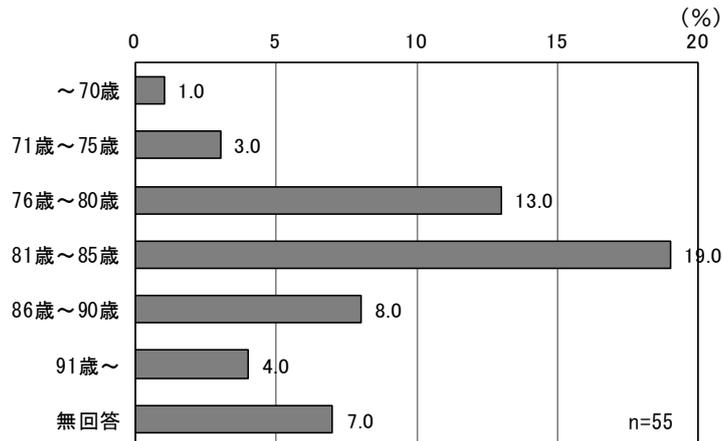
（Q9で「自動車（自分で運転）」を選択した方限定）

○「判断力が衰え、自信がなくなったら」が53.1%で最も高く、次いで「体力が衰え、自信がなくなったら」が15.9%、「ある程度の年齢になったら」が14.6%の順となっています。なお、「考えていない」は9.8%となっています。

○返納を考えている年齢は、「81歳～85歳」が19.0%で最も高くなっています。



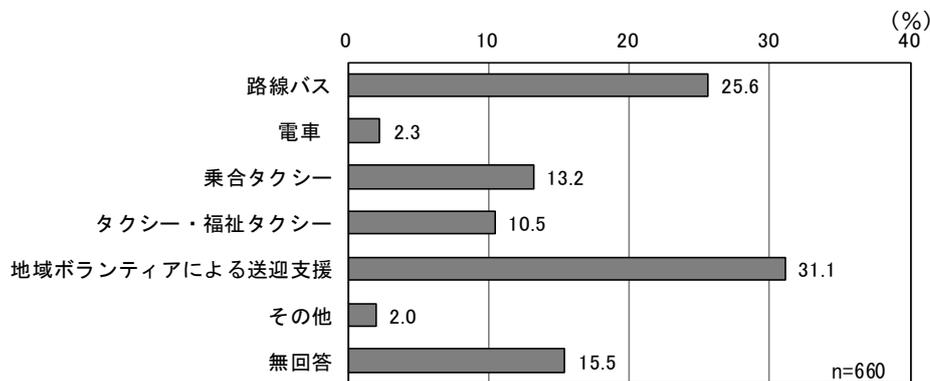
【返納を考えている年齢】



Q10. あれば良い交通手段

【MA】

○「地域ボランティアによる送迎支援」が31.1%で最も高く、次いで「路線バス」が25.6%、「乗合タクシー」が13.2%の順となっています。

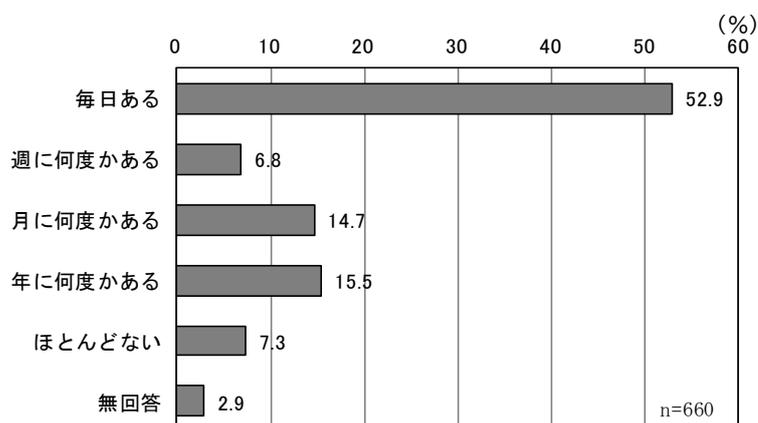


問3. 食べることについて

Q8. 誰かと食事をとる機会の有無

【SA】

○「毎日ある」が52.9%で最も高く、次いで「年に何度かある」が15.5%、「月に何度かある」が14.7%の順となっています。なお、「ほとんどない」は7.3%となっています。

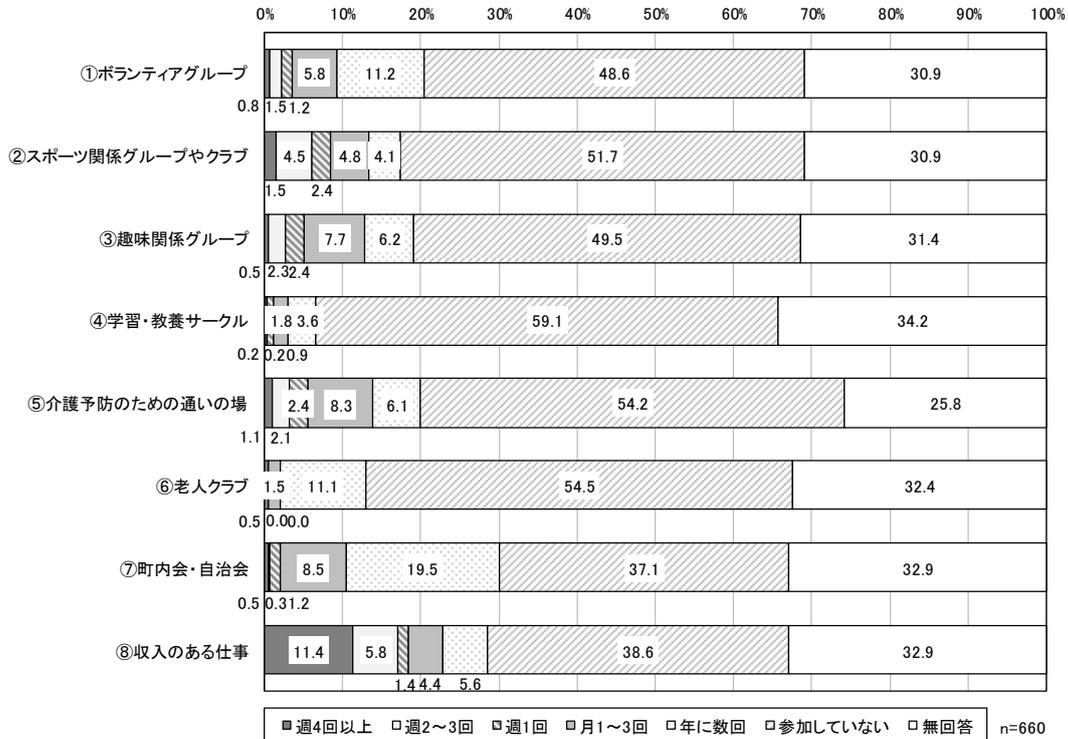


問5. 地域での活動について

Q1. 会やグループの参加頻度

【SA】

○「週4回以上」「週2～3回」「週1回」を合わせた『週1回以上』で比較すると、「⑧収入のある仕事」が18.6%で最も高くなっています。なお、他の活動についてはすべて10%以下となっています。

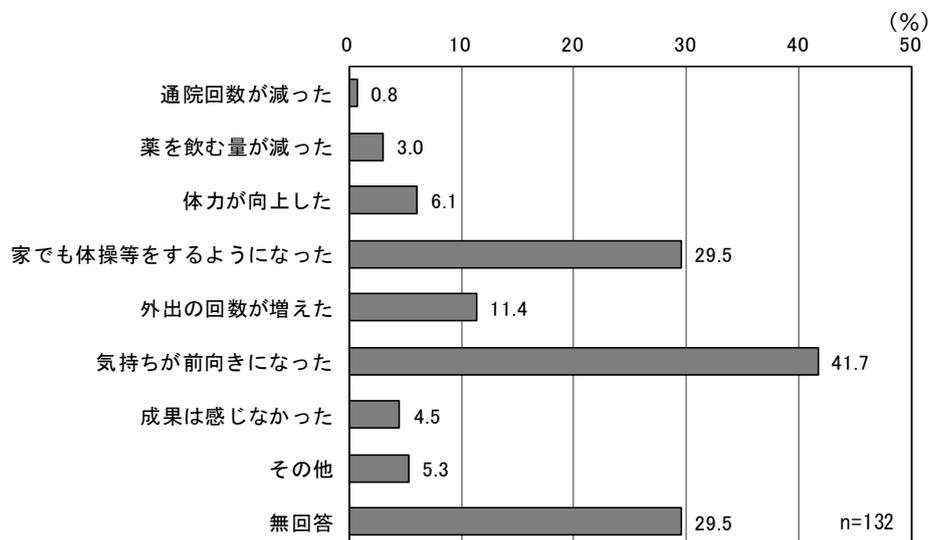


Q1-1. 介護予防のための「通いの場」の成果や効果

【SA】

(Q1. ⑤介護予防のための通いの場において「6. 参加していない」以外を選択した方限定)

○「気持ちが前向きになった」が41.7%で最も高く、次いで「家でも体操等をするようになった」が29.5%、「外出の回数が増えた」が11.4%の順となっています。一方、「成果は感じなかった」が4.5%となっています。

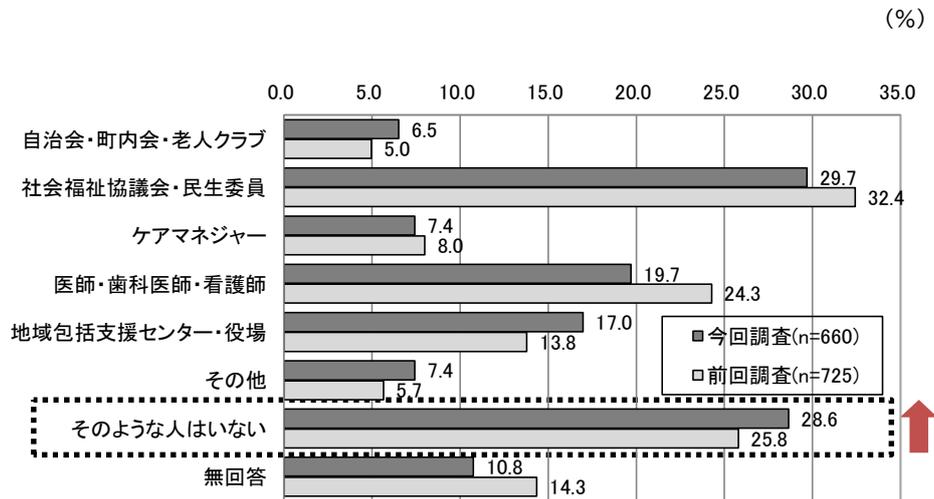


問6. たすけあいについて

Q5. 家族や友人・知人以外の相談相手

【MA】

- 「社会福祉協議会・民生委員」が29.7%で最も高く、次いで「そのような人はいない」が28.6%、「医師・歯科医師・看護師」が19.7%の順となっています。
- 前回調査に比べ「そのような人はいない」は2.8ポイント増加しています。

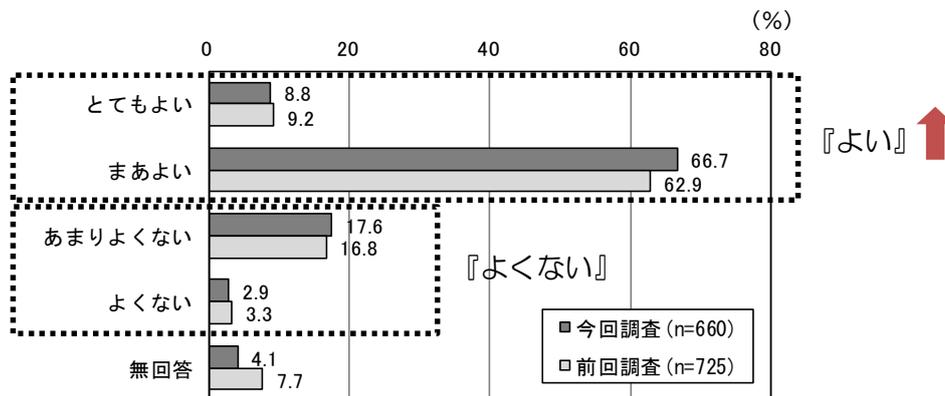


問7. 健康について

Q1. 主観的健康観

【SA】

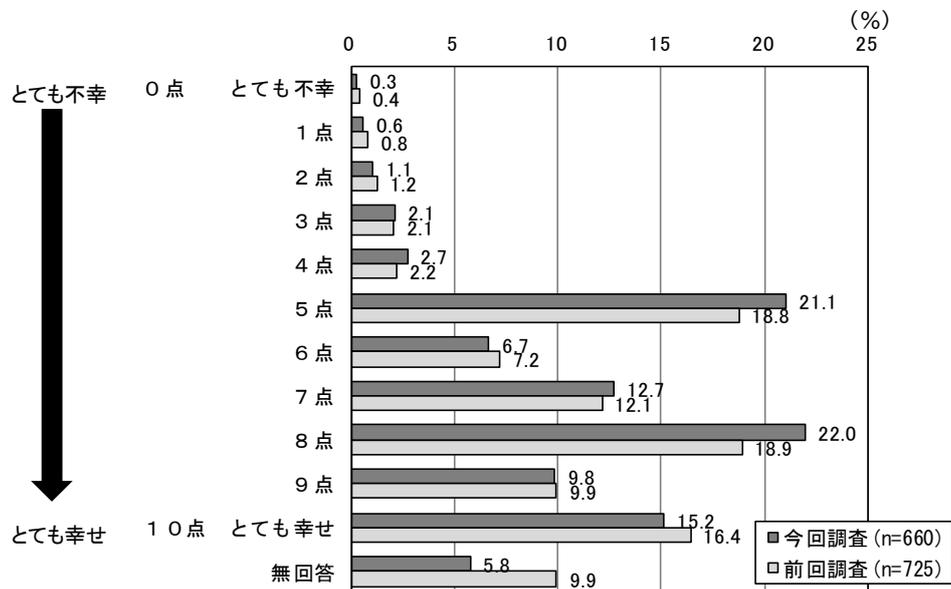
- 「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が75.5%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』が20.5%となっています。
- 前回調査に比べ『よい』が3.4ポイント増加し、『よくない』が0.4ポイント減少しています。



Q2. 主観的幸福観

【SA】

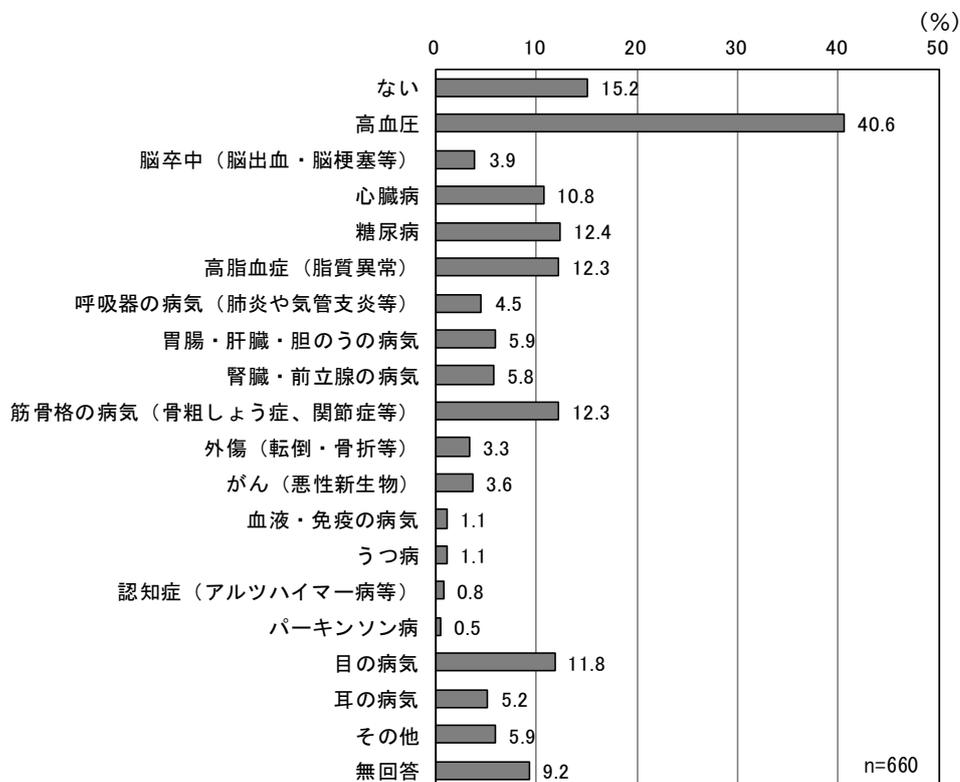
○「8点」が22.0%で最も高く、次いで「5点」が21.1%、「10点」が15.2%となっており、平均点は7.09で前回の7.16点よりも0.07ポイント減少しています。



Q7. 治療中、または後遺症のある病気

【MA】

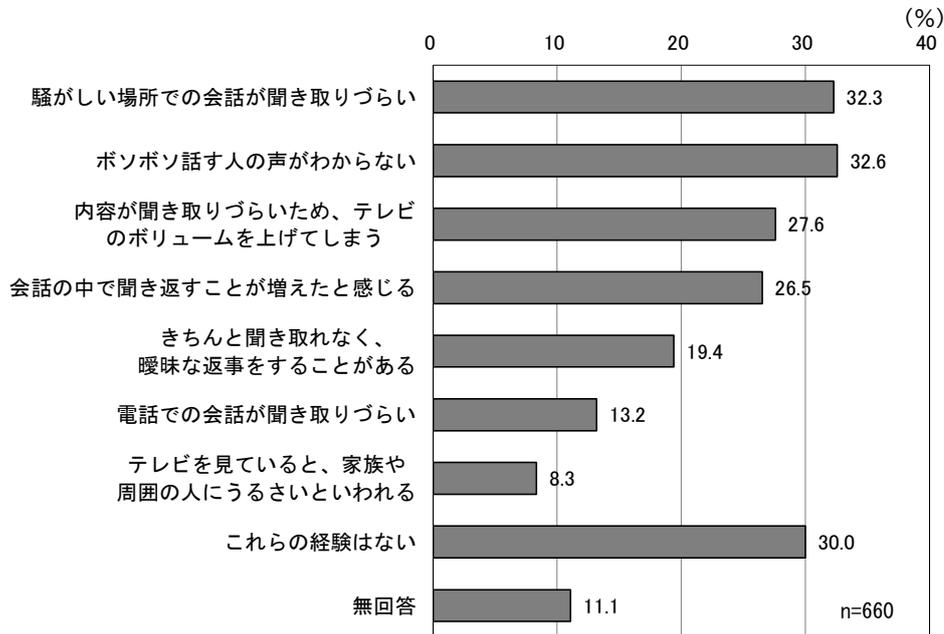
○「高血圧」が40.6%で最も高く、次いで「ない」が15.2%、「糖尿病」が12.4%、の順となっています。



Q9. 聞こえに関して日常生活で経験があること

【MA】

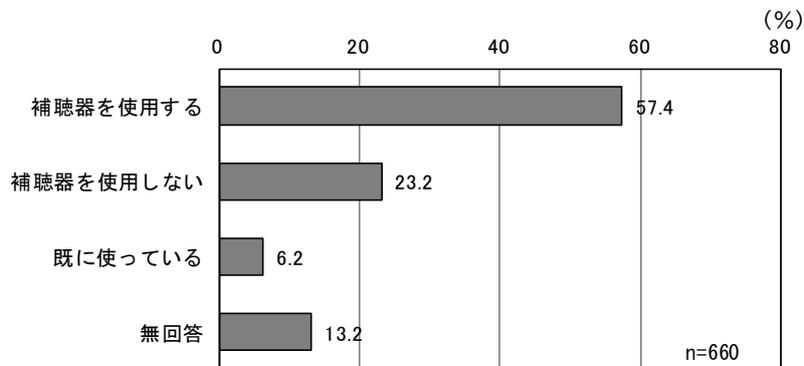
○「ボソボソ話す人の声がわからない」が32.6%で最も高く、次いで「騒がしい場所での会話が聞き取りづらい」が32.3%、「これらの経験はない」が30.0%の順となっています。



Q10. 将来、補聴器を使用したいか

【SA】

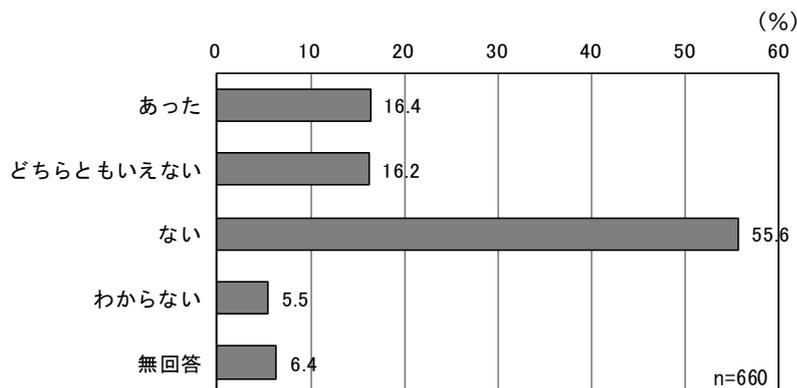
○「補聴器を使用する」が57.4%、「補聴器を使用しない」が23.2%となっています。



Q11. 新型コロナウイルス感染症による精神的・身体的な変化の有無

【SA】

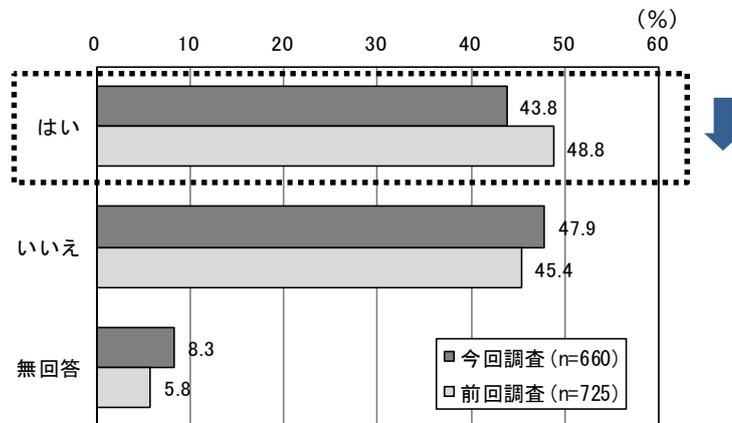
○「あった」は16.4%、「ない」が55.6%となっています。



問8. 認知症に係る相談窓口の把握について

Q2. 認知症の相談窓口を知っているか

○「はい」は43.8%となっており、前回調査に比べ5.0ポイント減少しています。

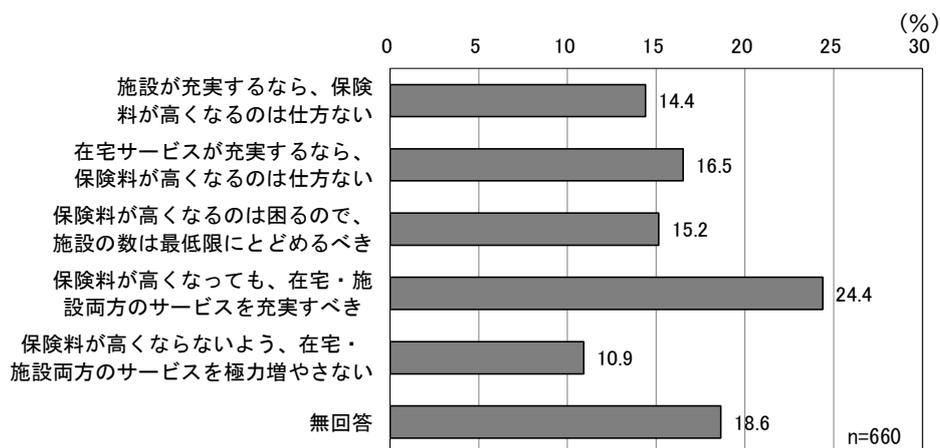


問9. 京丹波町の高齢者福祉施策について

Q1. 望ましい介護保険サービス整備のあり方

【SA】

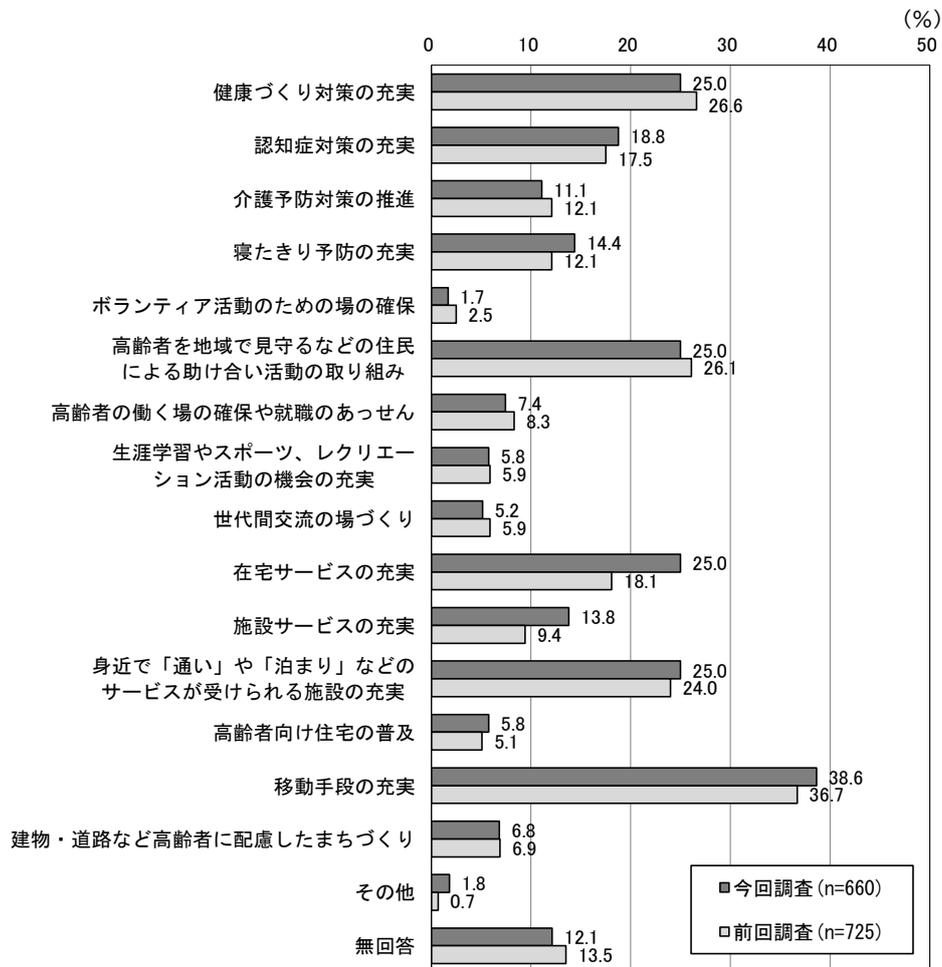
○「保険料が高くなっても、在宅・施設両方のサービスを充実すべき」が24.4%で最も高く、次いで「在宅サービスが充実するなら、保険料が高くなるのは仕方ない」が16.5%、「保険料が高くなるのは困るので、施設の数最低限にとどめるべき」が15.2%の順となっています。



Q2. 高齢者福祉で拡充が重要な施策

【MA】

- 「移動手段の充実」が38.6%で最も高く、次いで「健康づくり対策の充実」「高齢者を地域で見守るなどの住民による助け合い活動の取り組み」「在宅サービスの充実」「身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる施設の充実」がともに25.0%で高くなっています。
- 前回調査に比べ「移動手段の充実」が1.9ポイント増加しました。



I - II 生活機能評価

1. 生活機能評価手法の概要

(1)生活機能

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の必須設問（基本チェックリスト 項目）については、運動器機能低下、閉じこもりの状況、転倒のおそれ、低栄養状態の傾向等の高齢者の要介護リスク指標を把握・集計することにより、課題の明確化や介護保険事業計画の客観的基礎データの整備、介護予防事業の対象者の把握を行います。該当設問及び評価基準は以下のとおりです。

①運動器機能低下：次の設問で3項目以上、該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q1	階段	「3. できない」
問2. Q2	椅子からの立ち上がり	「3. できない」
問2. Q3	15分歩行	「3. できない」
問2. Q4	転倒経験	「1. 何度もある」「2. 1度ある」
問2. Q5	転倒不安	「1. とても不安である」「2. やや不安である」

②転倒リスク：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q4	転倒経験	「1. 何度もある」「2. 1度ある」

③閉じこもり傾向：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q6	週1回の外出	「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」

④低栄養：次の設問で2問ともに該当する場合

問番号	項目	選択肢
問3. Q1	身長・体重	() cm () kg BMI {体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)}}が18.5 以下の場合
問3. Q7	体重減	「1. はい」

⑤口腔機能低下：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問3. Q2	咀嚼	「1. はい」
問3. Q3	お茶や汁物でむせる	「1. はい」
問3. Q4	口の渇き	「1. はい」

I-II 生活機能評価

⑥認知機能低下：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問4. Q1	物忘れ	「1. はい」

⑦うつ傾向：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問7. Q3	ゆううつな気持ち	「1. はい」
問7. Q4	心から楽しめない	「1. はい」

(2)老研式活動能力指標

○老研式活動能力指標とは、手段的自立度（IADL）、知的能動性、社会的役割の3つの側面で構成された高次の生活機能の評価指標です。該当設問及び評価基準は以下のとおりです。

①手段的自立度（IADL）¹：以下の5設問の合計点数で評価

・5点：高い ・4点：やや低い ・0～3点：低い

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q4	外出	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問4. Q5	買物	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問4. Q6	食事用意	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問4. Q7	支払い	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問4. Q8	預貯金	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」

¹ IADL：買物・電話・外出等、高い自立した日常生活をおくる能力。手段的日常生活動作能力。

②知的能動性：以下の4設問の合計点数で評価

・4点：高い　・0～3点：低い

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q9	年金書類	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q10	新聞	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q11	本や雑誌	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q12	健康への関心	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

③社会的役割：以下の4項目の合計点数で評価

・4点：高い　・0～3点：低い

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q13	友人の家訪問	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q14	友人からの相談	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q15	病人の見舞い	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q16	若い人への話しかけ	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

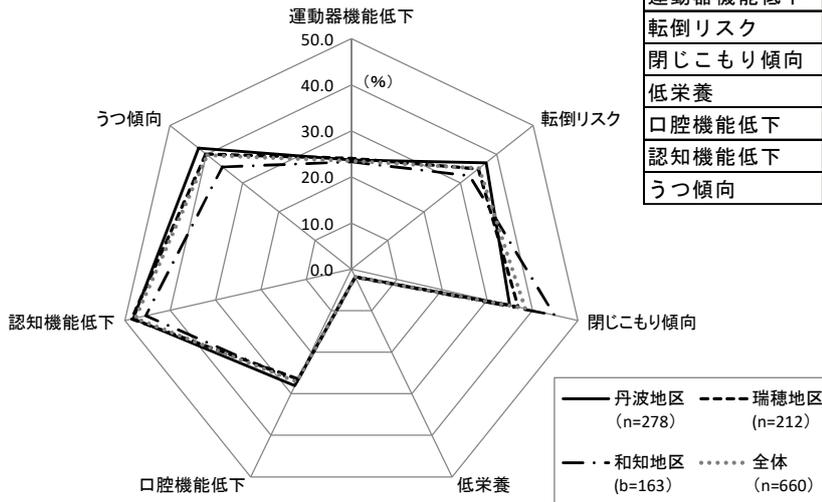
2. 評価結果

1. 生活機能

○生活機能の評価項目ごとの該当者（リスク者）の割合は、全体では「認知機能低下」が最も高く、次いで「うつ傾向」、「閉じこもり傾向」の順になっています。

○日常生活圏域別にみると、「閉じこもり傾向」の該当者（リスク者）は、“和知地区”が他と比べやや高くなっています。

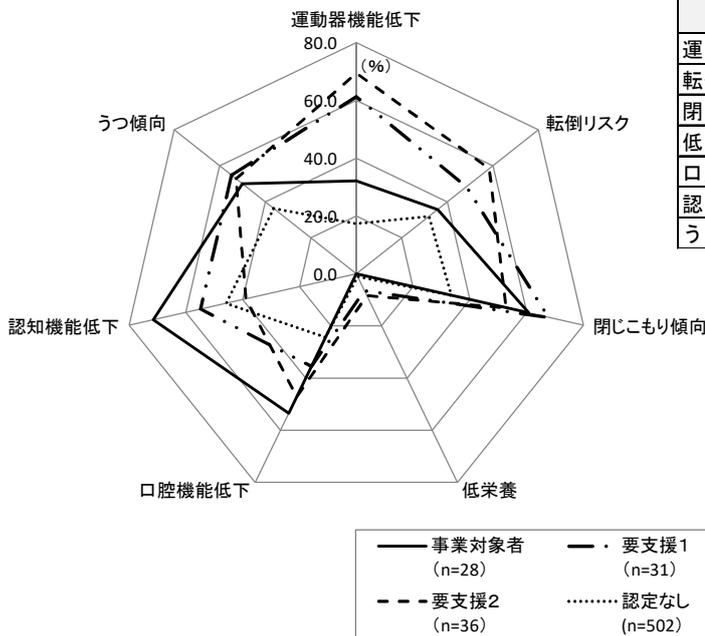
地区別該当者割合



	丹波地区 (n=278)	瑞穂地区 (n=212)	和知地区 (b=163)	全体 (n=660)
運動器機能低下	23.7	24.1	23.3	23.5
転倒リスク	37.1	34.9	32.5	35.2
閉じこもり傾向	34.9	36.8	44.8	38.3
低栄養	1.8	1.9	1.8	1.8
口腔機能低下	28.1	26.4	27.0	27.1
認知機能低下	48.2	48.6	45.4	47.7
うつ傾向	42.1	40.1	35.6	39.7

○要介護状態区分別にみると、「口腔機能低下」と「認知機能低下」の該当者（リスク者）は、“事業対象者”が、他と比べ割合が高くなっています。また「認知機能低下」は“認定なし”においても該当者は45.8%と高くなっています。

要介護状態区分別該当者割合

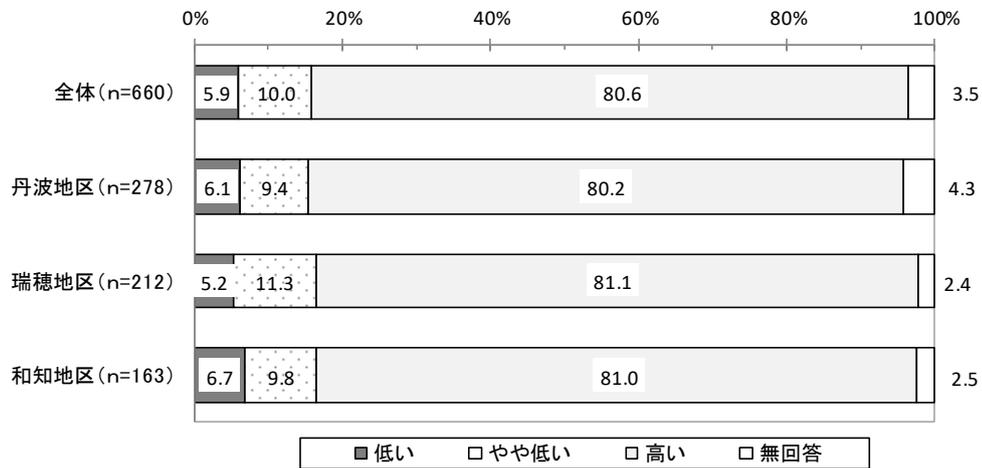


	事業対象者 (n=28)	要支援1 (n=31)	要支援2 (n=36)	認定なし (n=502)
運動器機能低下	32.1	61.3	69.4	17.3
転倒リスク	35.7	48.4	58.3	31.9
閉じこもり傾向	60.7	67.7	52.8	33.5
低栄養	0.0	6.5	8.3	1.0
口腔機能低下	53.6	35.5	47.2	24.3
認知機能低下	71.4	54.8	38.9	45.8
うつ傾向	50.0	54.8	52.8	36.3

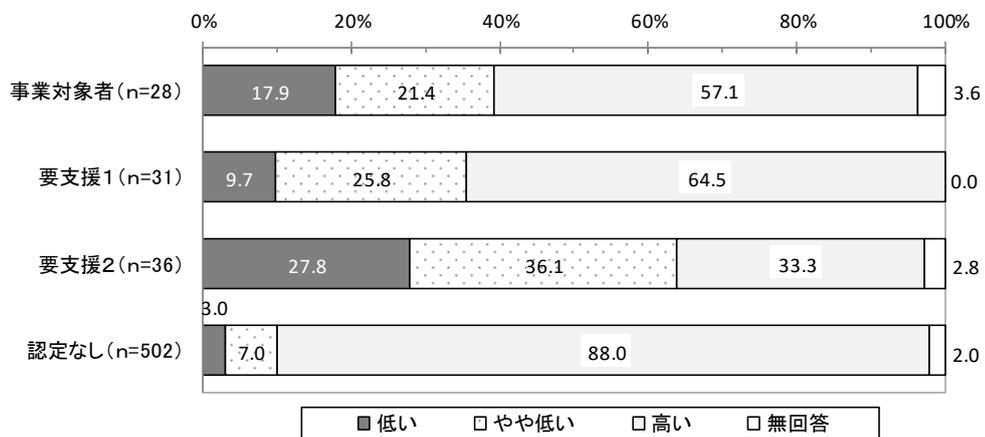
2. 老研式活動能力指標

①手段的自立度（IADL）

○日常生活圏域別にみると、「低い」と「やや低い」とを合わせた『低い』は、“瑞穂地区”でやや高くなっています。



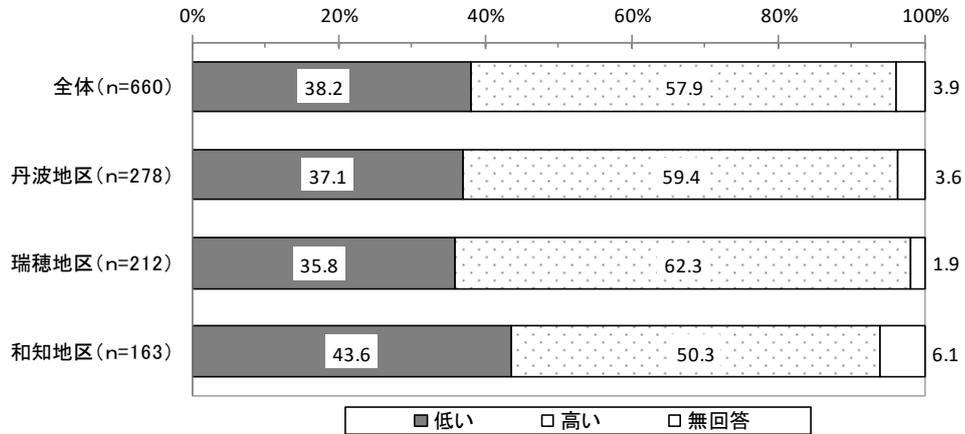
○要介護状態区分別にみると、「低い」と「やや低い」とを合わせた『低い』は、“要支援2”では63.9%と最も高く、“要支援1”より“事業対象者”の方が『低い』が高くなっています。



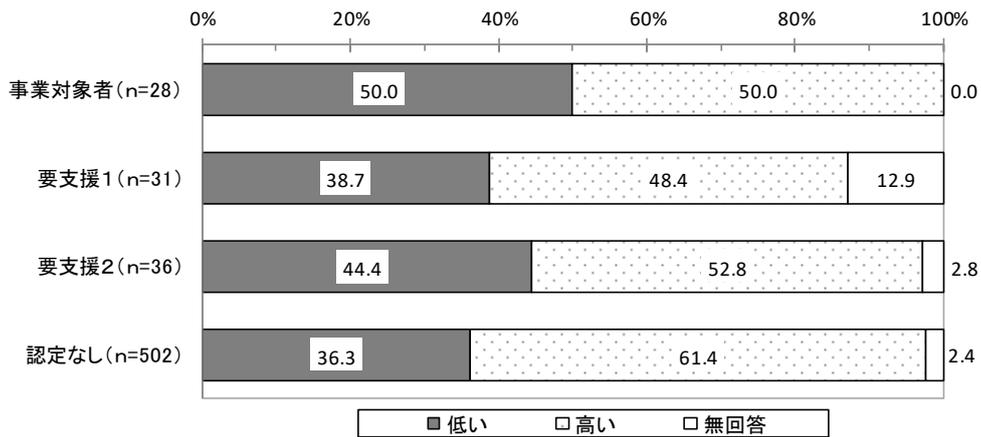
I - II 生活機能評価

②知的能動性

○日常生活圏域別にみると、「高い」は、“瑞穂地区”が 62.3%で他の圏域に比べ高く、“和知地区”が 50.3%で最も低くなっています。

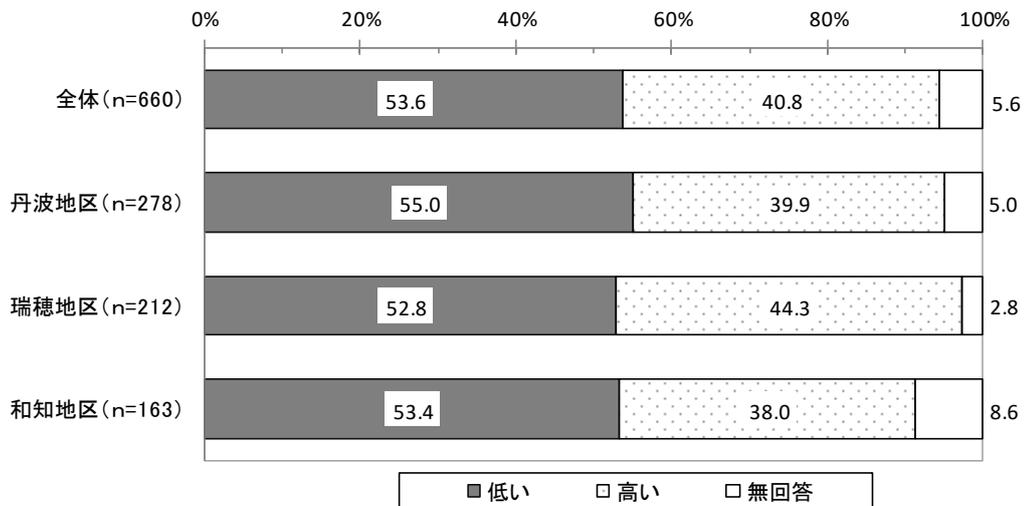


○要介護状態区分別にみると、「低い」は、“事業対象者”が 50.0%で最も高く、次いで“要支援2”、“要支援1”の順となっています。

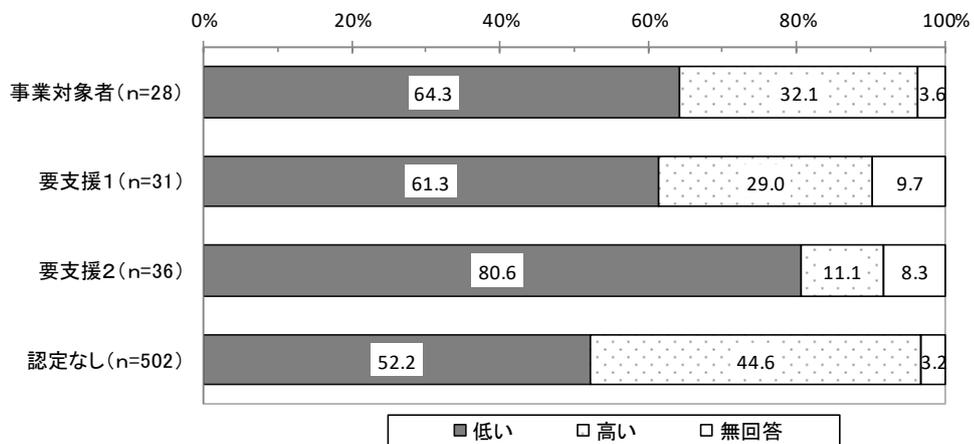


③社会的役割

○日常生活圏域別にみると、「低い」は、“丹波地区”が他の圏域に比べやや高くなっています。



○要介護状態区分別にみると、「低い」は、“要支援2”が80.6%で最も高く、次いで“事業対象者”、“要支援1”の順となっており、最も低い“認定なし”においても半数以上が「低い」となっています。



II 在宅介護実態調査

II 在宅介護実態調査

※国の自動集計分析ソフトにより、要介護認定データ（令和5年2月）を利用した分析・集計を行っています。

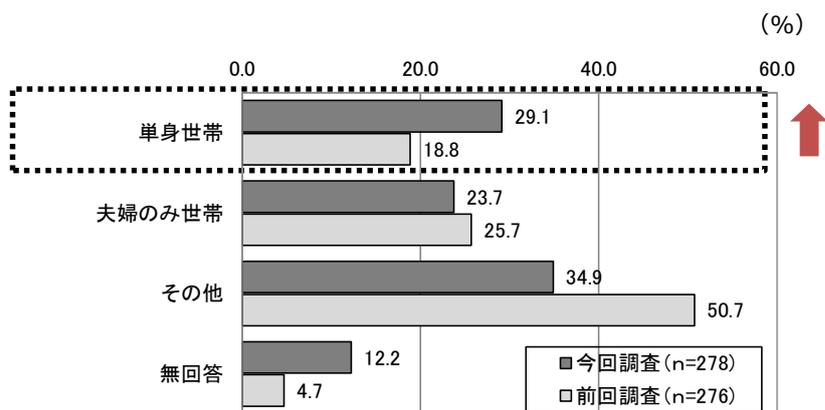
A票. 調査対象者について

Q2. 世帯類型

【SA】

○「その他」が34.9%で最も高く、次いで「単身世帯」が29.1%、「夫婦のみ世帯」が23.7%の順となっています。

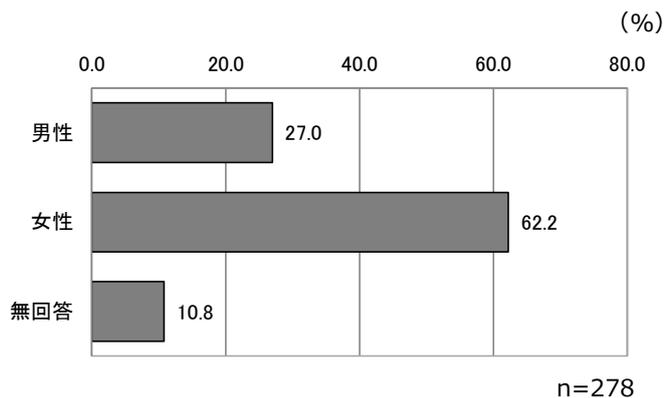
○前回調査に比べ「その他」が15.8ポイント減少、一方「単身世帯」が10.3ポイント増加しています。



Q3. 性別

【SA】

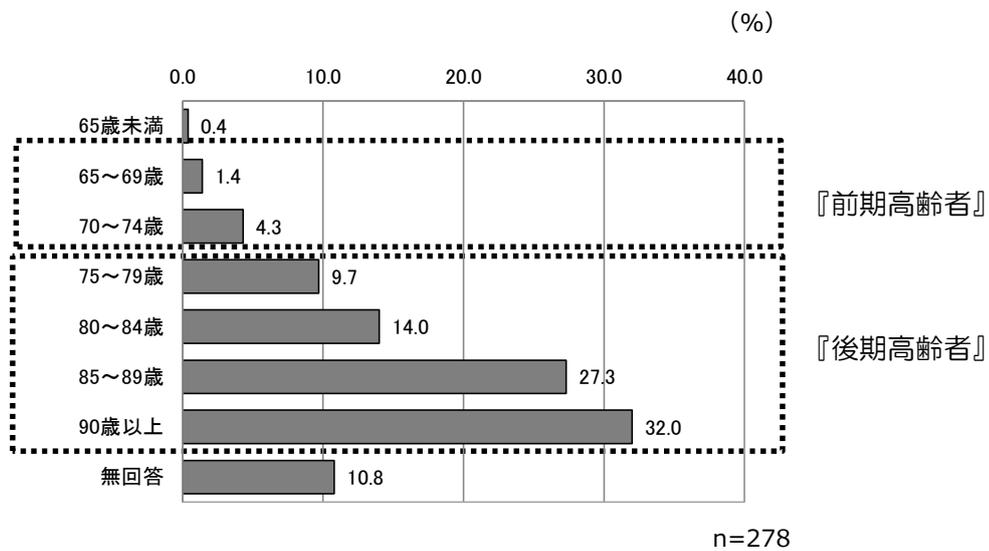
○「男性」より「女性」の割合が高くなっています。



Q4. 年齢

【SA】

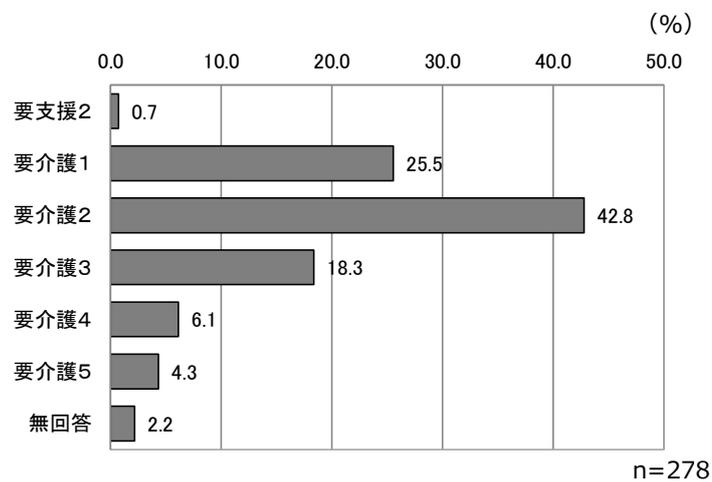
○「90歳以上」が32.0%で最も高く、後期高齢者（75歳以上）が83.0%となっています。



Q5. 要介護度

【SA】

○「要介護2」が42.8%で最も高くなっています。（要介護認定データによる）



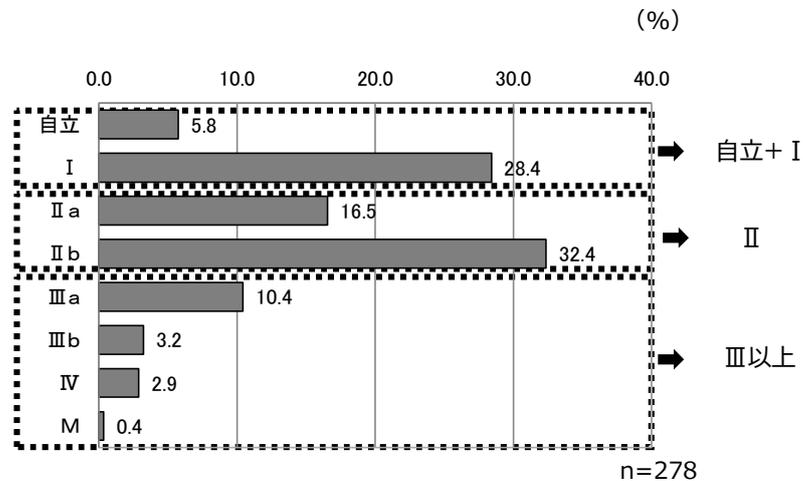
II 在宅介護実態調査

●認知症自立度

(SA)

○「II b」が32.4%で最も高く、次いで「I」が28.4%、「II a」が16.5%の順となっています。

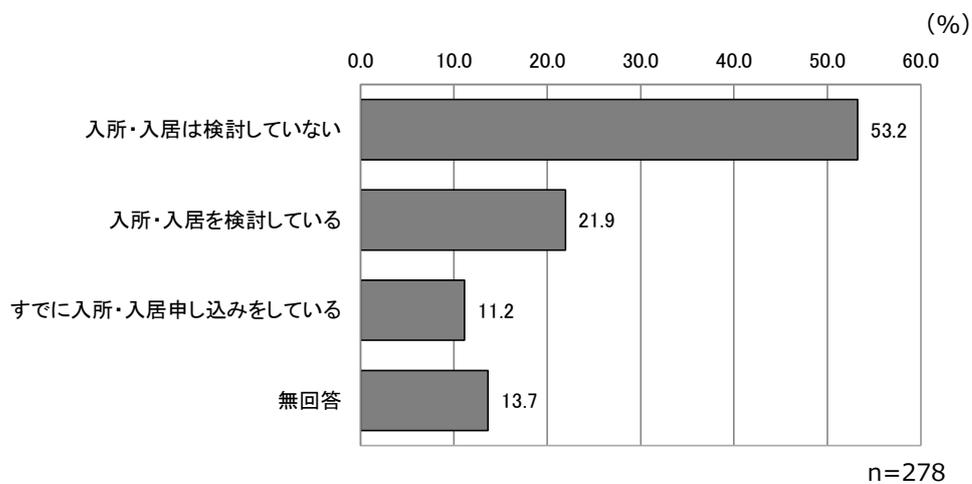
○要介護度別にみると、“要介護5”は『Ⅲ以上』が75.0%を占めています。



Q6. 施設等への入所・入居の検討状況

(SA)

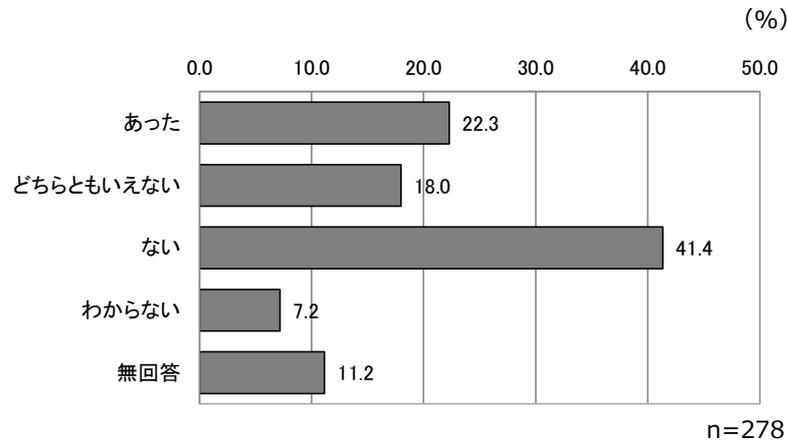
○「入所・入居は検討していない」が53.2%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が21.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が11.2%の順となっています。



Q7. 新型コロナウイルスの影響による精神的・身体的な変化の有無

【SA】

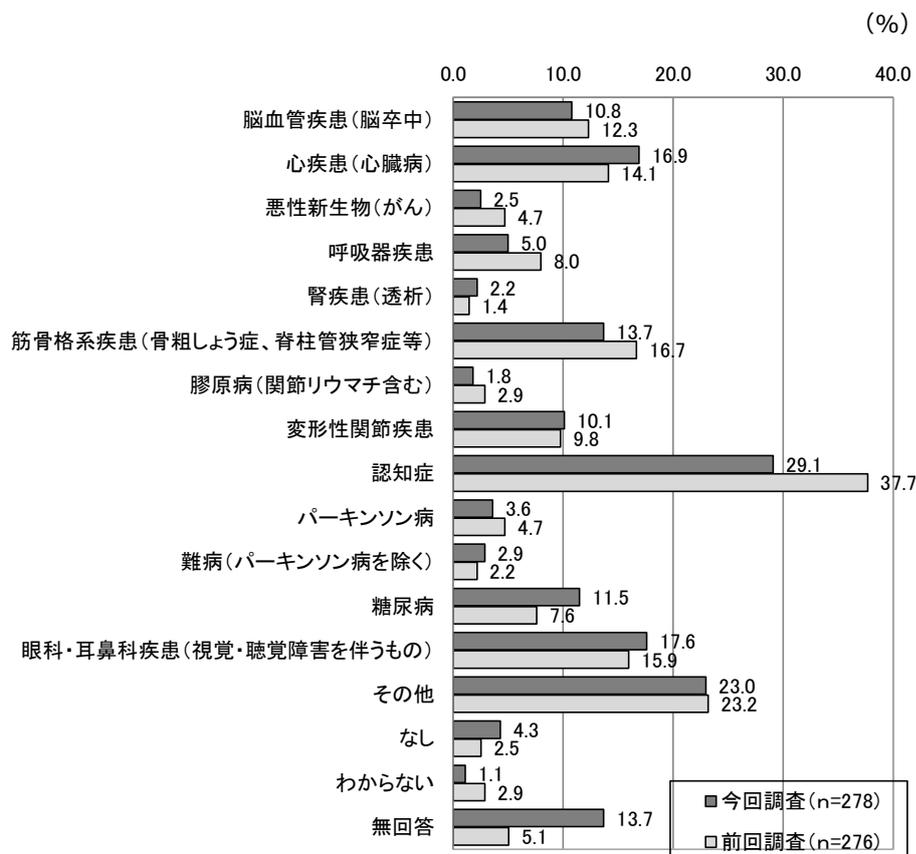
○「あった」が22.3%、「ない」が41.4%となっています。



Q8. 現在抱えている傷病

【MA】

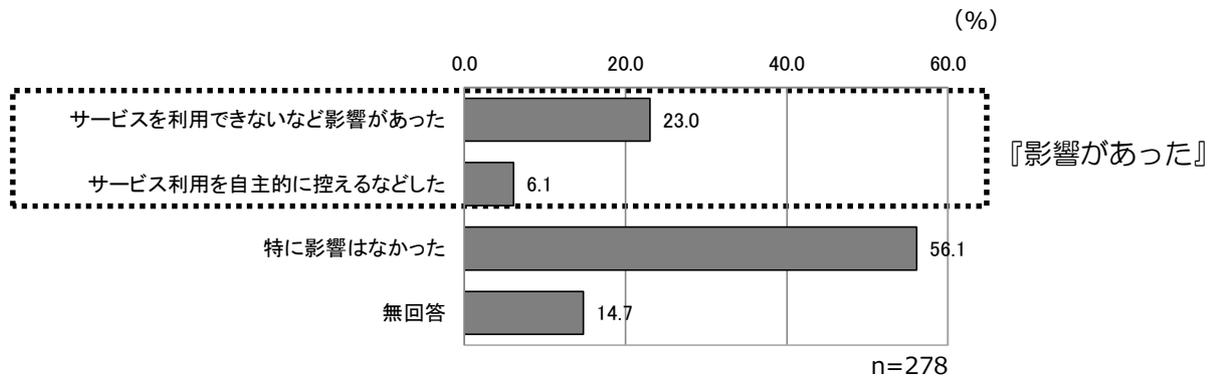
○「認知症」が29.1%で最も高く、次いで「その他」が23.0%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が17.6%の順となっています。



II 在宅介護実態調査

Q9. 新型コロナウイルス感染症の流行による介護保険サービス利用への影響

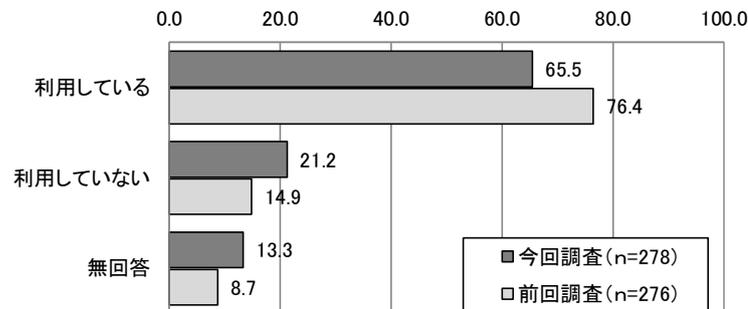
○「サービスを利用できないなど影響があった」が23.0%、「サービス利用を自主的に控えるなどした」が6.1%で合わせた『影響があった』は29.1%となっています。



Q10. 令和4年12月の介護保険サービスの利用の有無

【SA】

○「利用している」が65.5%、「利用していない」が21.2%となっています。前回調査に比べ「利用している」は10.9ポイント減少しています。

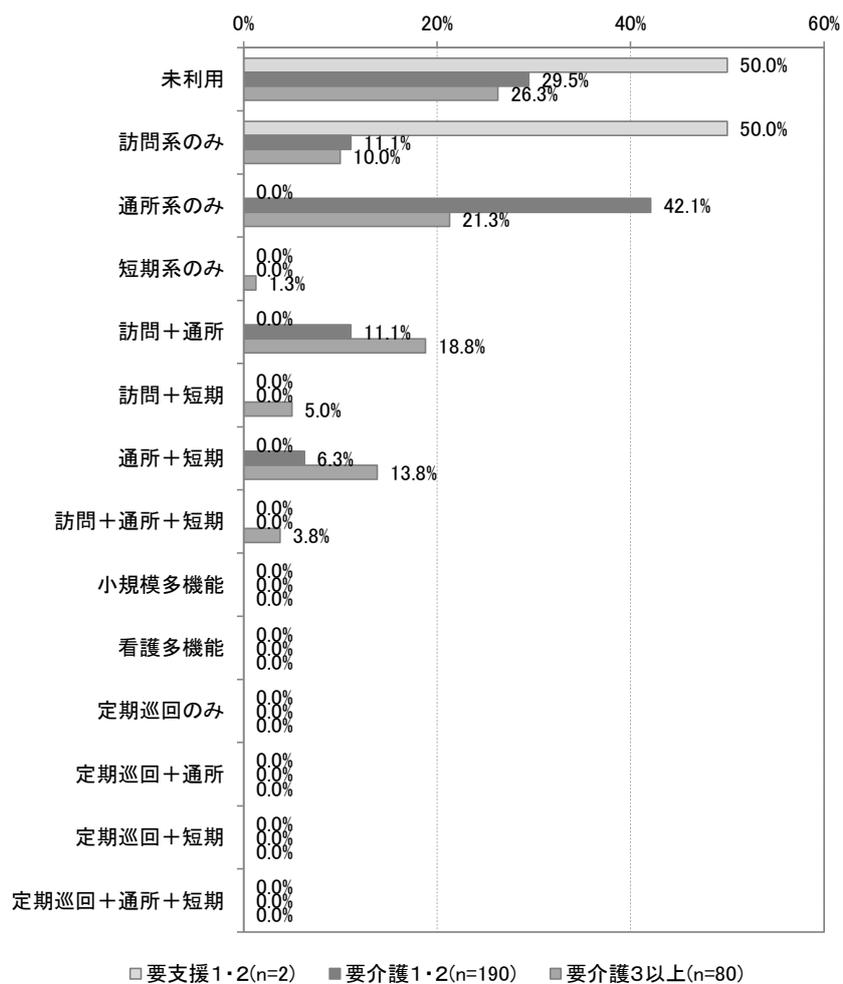


●介護保険サービス利用の状況

【SA】

○要介護度別にみると、“要介護1・2”では「通所系のみ」が42.1%と最も高く、次いで「未利用」が29.5%、「訪問系のみ」、「訪問+通所」が11.1%となっています。“要介護3以上”では「未利用」が26.3%と最も高く、次いで「通所系のみ」が21.3%、「訪問+通所」が18.8%となっています。

【要介護度別・介護保険サービス利用の有無】



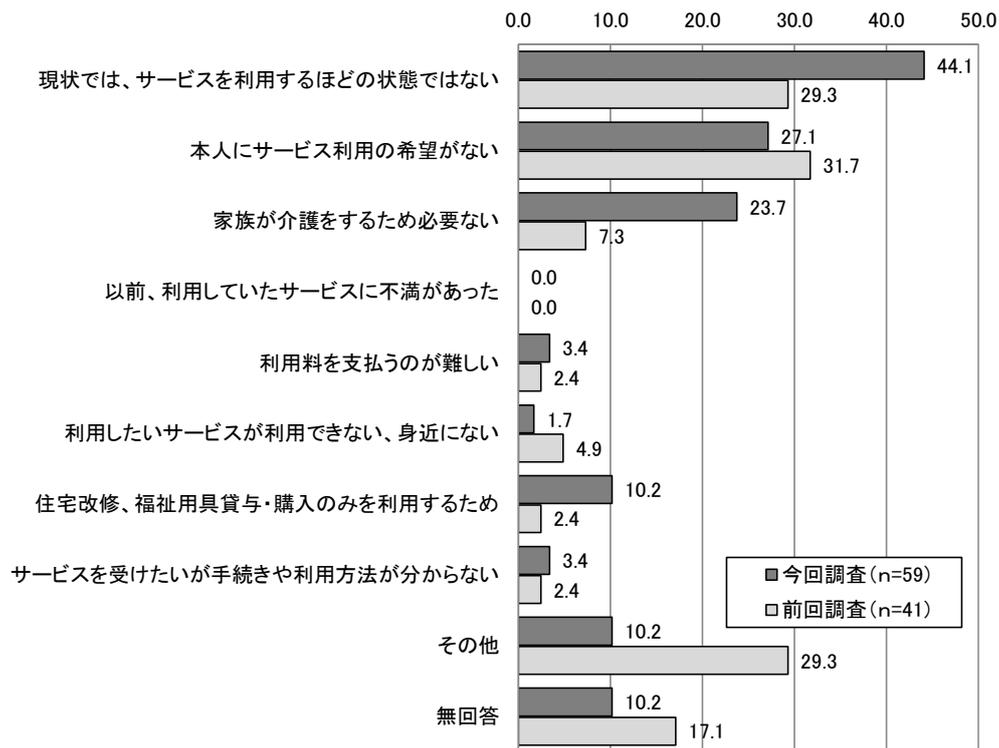
Q11. 介護保険サービスを利用していない理由

【MA】

(Q10で「利用していない」を選択した方限定)

○「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が44.1%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が27.1%となっています。

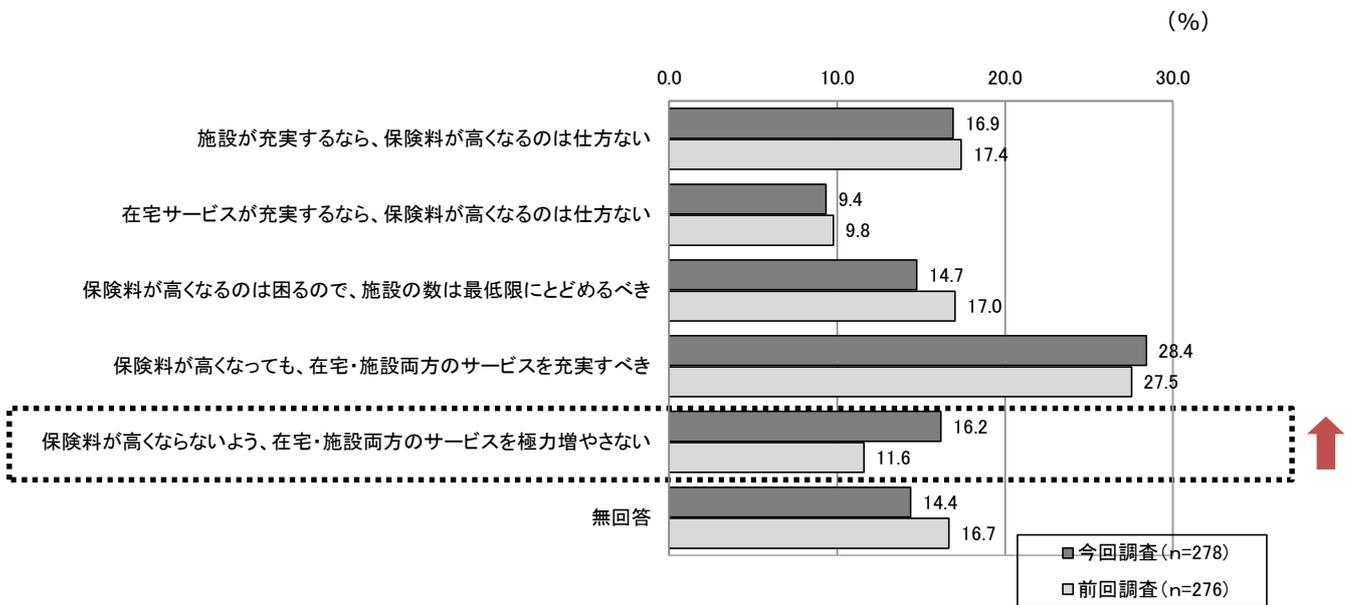
○前回調査に比べ「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が14.8ポイント増加しています。



Q12. 介護保険サービスと介護保険料のバランス

【SA】

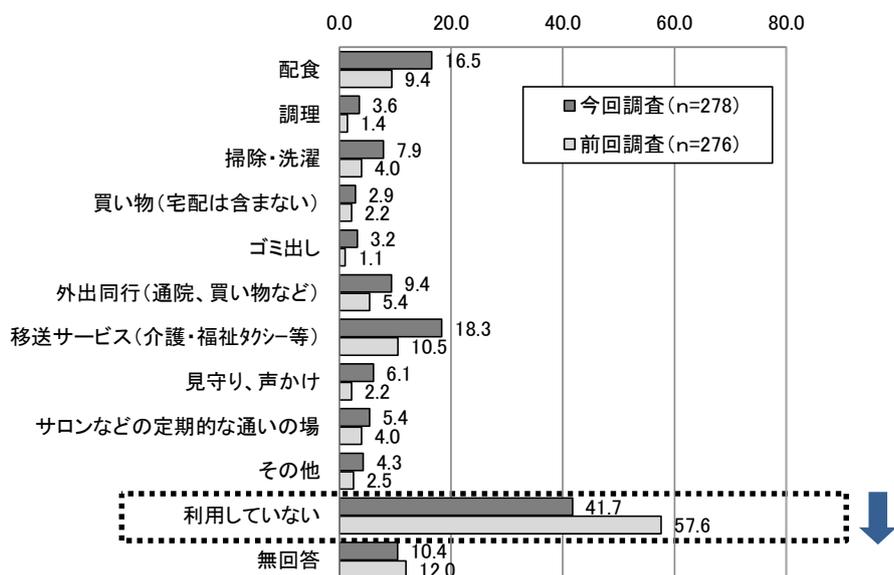
- 「保険料が高くなっても、在宅・施設両方のサービスを充実すべき」が28.4%で最も高く、次いで「施設が充実するなら、保険料が高くなるのは仕方ない」が16.9%となっています。
- 前回調査に比べ「保険料が高くならないよう、在宅・施設両方のサービスを極力増やさない」が4.6ポイント増加しています。



Q13. 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

【MA】

- 「利用していない」が41.7%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.3%、「配食」が16.5%の順となっています。
- 前回調査に比べ「利用していない」が15.9ポイント減少し、すべての支援・サービスで利用割合が増加しています。



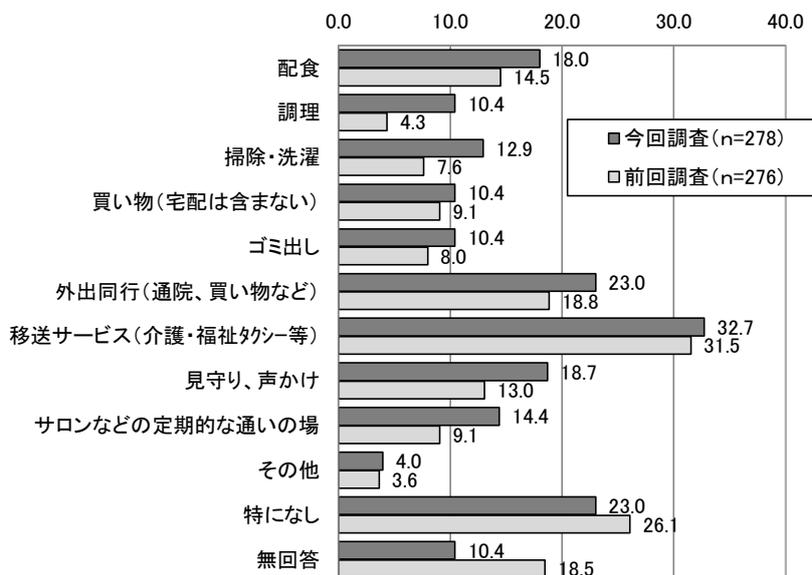
II 在宅介護実態調査

Q14. 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

【MA】

○「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.7%で最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」と「特になし」が同率の23.0%の順となっています。

○前回調査に比べ、すべての支援・サービスが高くなっています。

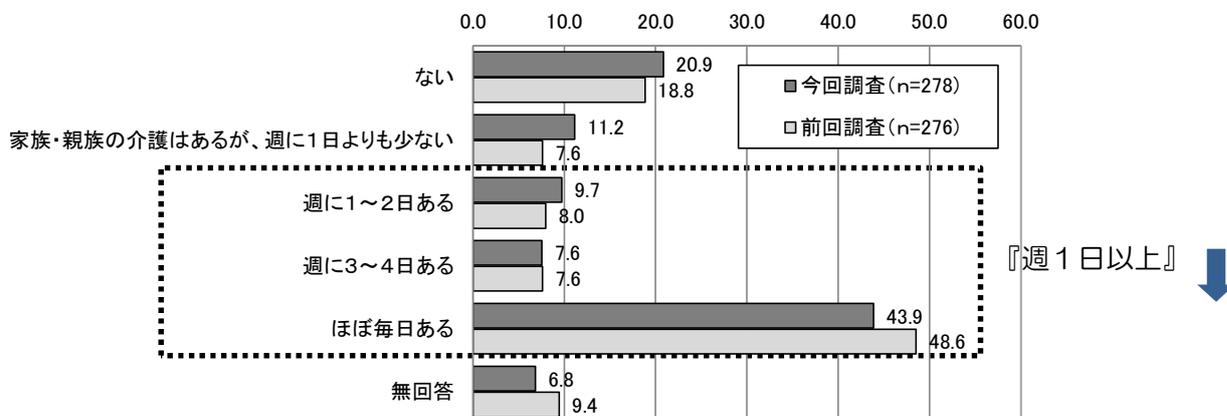


Q16. 家族や親族からの介護の状況

【SA】

○「ほぼ毎日ある」が43.9%で最も高く、次いで「ない」が20.9%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」が11.2%の順となっており、『週1日以上』が61.2%となっています。

○『週1日以上』は、前回調査に比べ3.0ポイント減少しています。



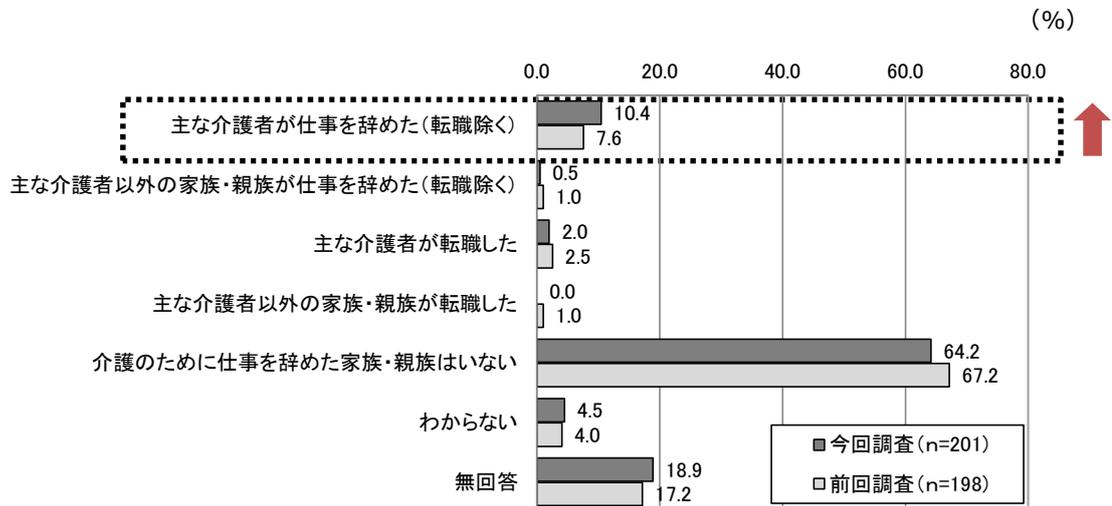
B票. 主な介護者の方について

～以降、A票のQ16で家族や親族からの介護が「ない」以外を選択した方限定(自由記述を除く)～

Q1. 介護のため過去1年間に仕事を辞めた方

【MA】

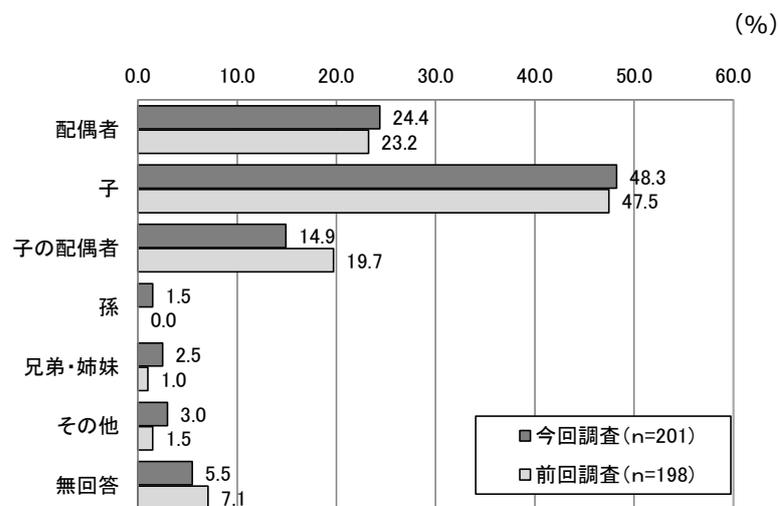
- 「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が64.2%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が10.4%、「わからない」が4.5%の順となっています。
- 前回調査に比べ「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が2.8ポイント増加しています。



Q2. 主な介護者

【SA】

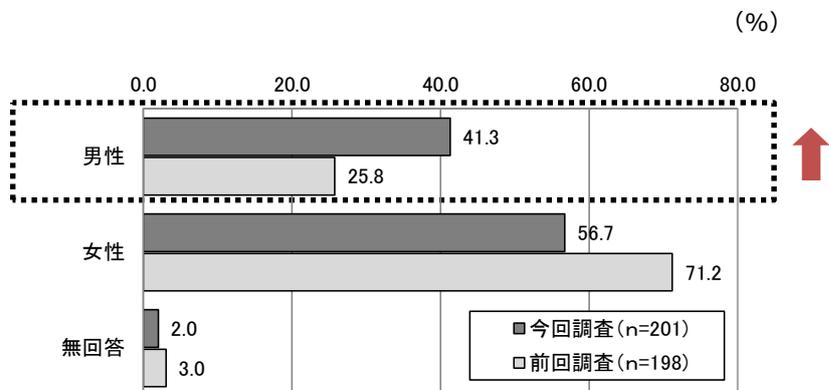
- 「子」が48.3%で最も高く、次いで「配偶者」が24.4%、「子の配偶者」が14.9%の順となっています。
- 前回調査に比べ「子の配偶者」が4.8ポイント減少しています。



Q3. 主な介護者の性別

【SA】

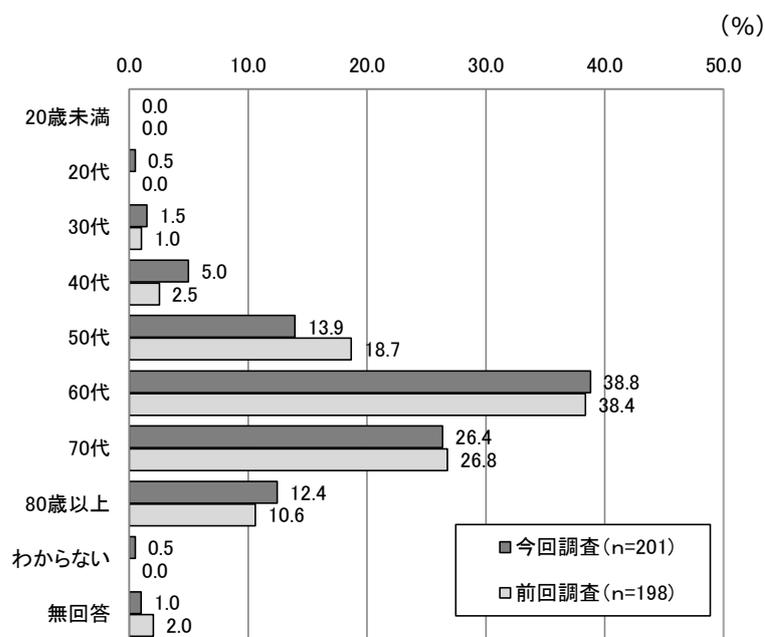
- 「女性」が56.7%、「男性」が41.3%となっています。
- 前回調査に比べ「男性」が15.5ポイント増加しています。



Q4. 主な介護者の年齢

【SA】

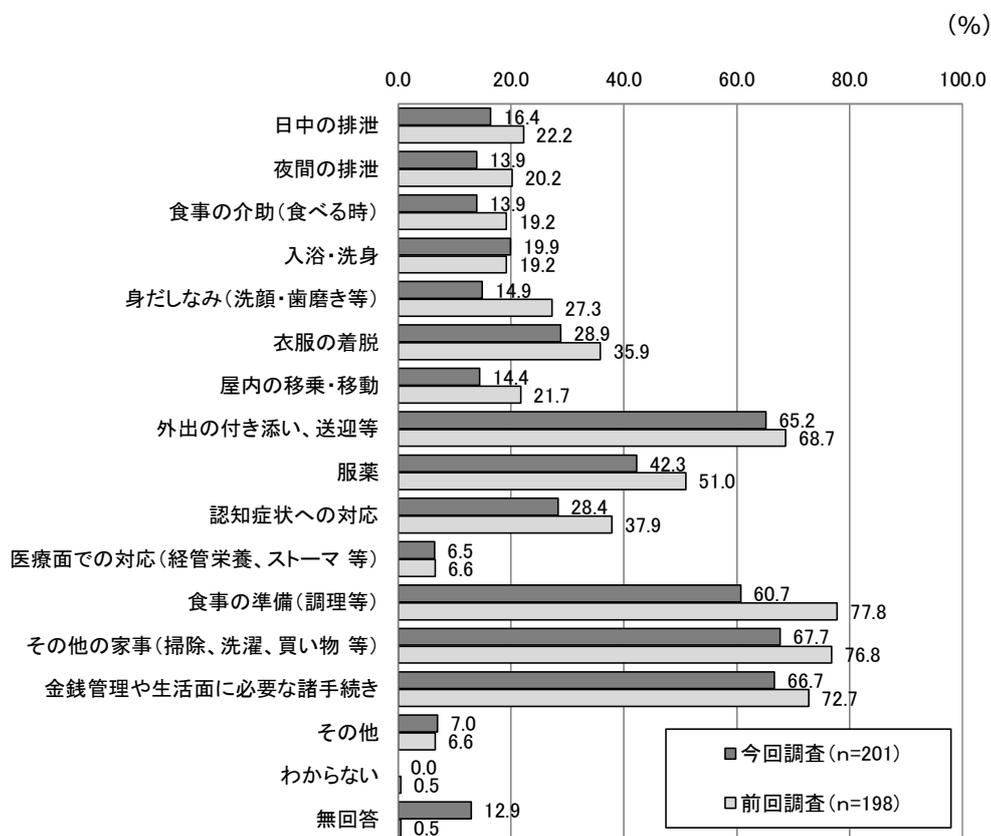
- 「60代」が38.8%で最も高く、次いで「70代」が26.4%、「50代」が13.9%の順となっています。
- 前回調査に比べても、大きな差異はみられません。



Q5. 主な介護者が行っている介護等

【MA】

- 「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」が67.7%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が66.7%、「外出の付き添い、送迎等」が65.2%の順となっています。
- 前回調査で最も高かった「食事の準備(調理等)」は、第4位となっています。

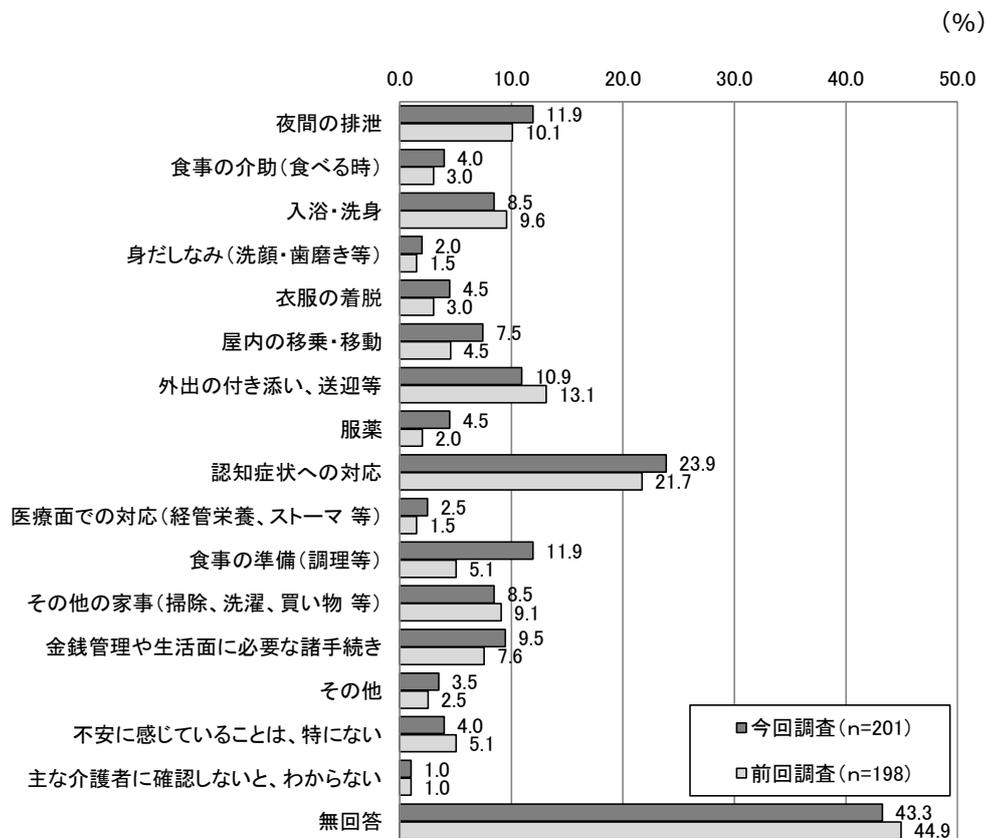


II 在宅介護実態調査

Q6. 主な介護者が不安に感じる介護等

【MA】

○「認知症状への対応」が23.9%で最も高く、次いで「夜間の排泄」と「食事の準備」が同率の11.9%の順となっています。

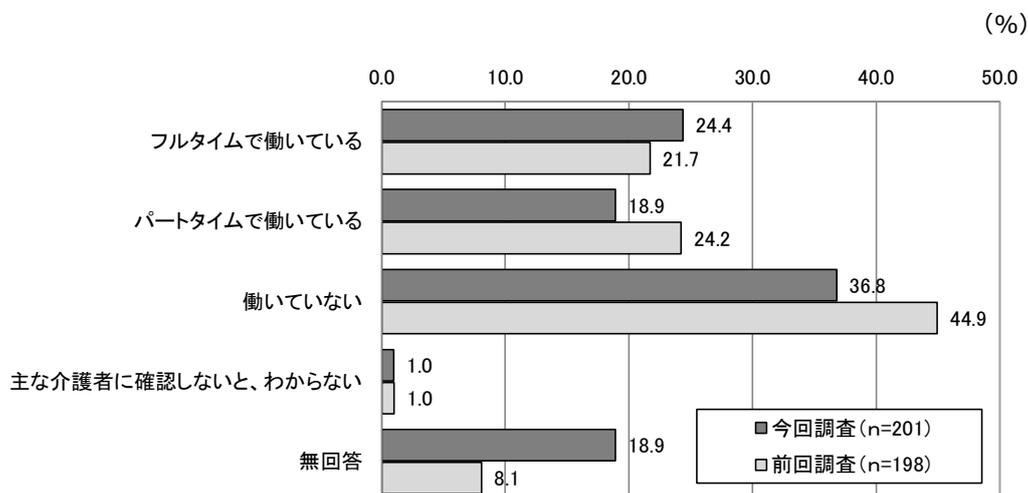


Q7. 主な介護者の勤務形態

【SA】

○「働いていない」が36.8%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が24.4%、「パートタイムで働いている」が18.9%の順となっています。

○前回調査に比べ「働いていない」が8.1ポイント減少する一方で、「フルタイムで働いている」が2.7ポイント増加しています。



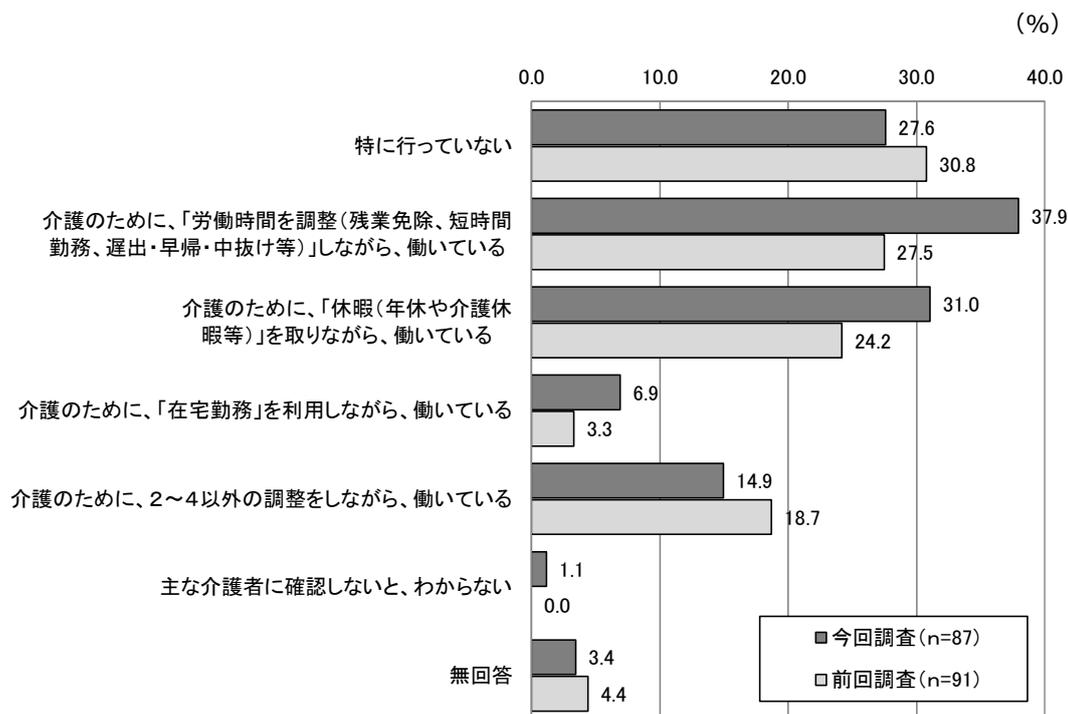
Q8. 介護のための働き方の調整

【MA】

(Q7. で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が37.9%で最も高く、次いで「介護のために、「休暇」(年休や介護休暇等)を取りながら、働いている」が31.0%、「特に行っていない」が27.6%の順となっています。

○前回調査に比べ、何らかの調整をしている割合が増加しています。



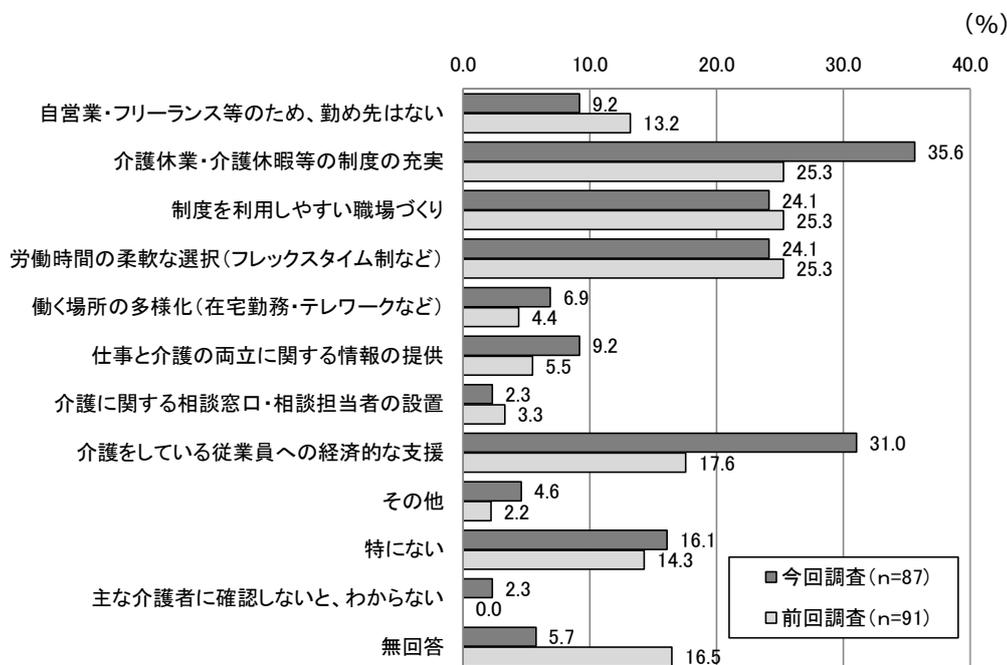
Q9. 仕事と介護の両立のために効果的な勤務先からの支援

【MA】

(Q7. で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が35.6%で最も高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が31.0%となっています。

○前回調査に比べ「介護をしている従業員への経済的な支援」が13.4ポイント増加しています。



Q10. 今後の就労継続見込み

【SA】

(Q7. で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた『続けていける』が67.8%、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた『続けていくのは難しい』は25.2%となっています。

○前回調査に比べ『続けていける』は3.0ポイント増加しています。

